

# 枚方市都市景観基本計画 【改訂版】 (案)

～ 新旧対照表 ～

平成 25 年 枚方市

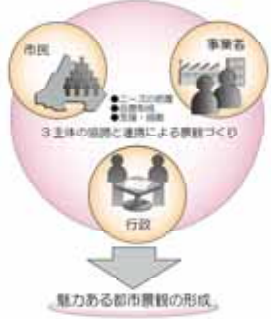
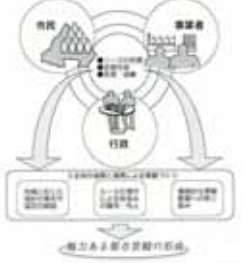
枚方市都市景観基本計画

項目	改訂案	時点修正の内容	現 行
表紙	<p>枚方市都市景観基本計画【改訂版】</p> <p>枚方の新たな魅力をつくる</p> <p>平成 25 年 7 月 枚方市</p>	<p>名称、策定日等を修正</p>	<p>枚方市都市景観基本計画</p> <p>枚方の新たな魅力を創る</p> <p>平成 6 年 3 月 枚方市</p>
はじめに		<p>現状に合わせて全面改定</p>	<p>はじめに</p> <p>わが国は高度経済成長期を経て、世界でも有数の経済大国へと発展してきました。しかし、経済優先のまちづくりは、地域の個性である伝統的な風景を消失させ、同じようなまちなみ、特色のない都市を出現させました。</p> <p>今日、人々の価値観が物質的な豊かさから精神的な豊かさへと変化し、生活にゆとり、うるおい、楽しみを求めるようになるにつれ、生活の質の充実が大切になってきました。人々が生きている遊・職・住のそれぞれの場面として都市のあり方が求められています。</p> <p>本市は、2000 年を目標とした総合計画第二期基本計画において、市民生活を支える都市基盤整備の充実とともに、人や環境にやさしいまちづくり・個性と活気にあふれる魅力的なまちづくりを目指した施策を掲げ、その具体化に取り組んでいくこととしています。</p> <p>いつまでも住みつけたい、住んでみたい、訪れてみたいと誰もが感じるようなまちを、都市景観という側面から実現していくための指針として、ここに「枚方市都市景観基本計画」を策定しました。</p> <p>本市はこの基本計画を基に 21 世紀の枚方市の 新たな魅力 を創っていきたいと考えています。そのために、美しさ、うるおいのある「ひらかた色」豊かな景観形成を目指し、市民・事業者・行政が一体となったまちづくりを進めます。</p> <p>最後に、本計画策定にあたって、貴重なご指導・ご助言をいただきました「枚方市都市景観基本計画検討委員協議会」の委員各位をはじめ、関係各位に厚くお礼申し上げます。</p> <p>平成 6 年 3 月 枚方市長 大塩 和男</p> <p>写真：香里こもれび水路</p>

項目	改訂案	時点修正の内容	現行
目次	<p>枚方市都市景観基本計画【改訂版】 目次</p> <p>序章 枚方の新たな魅力をつくる</p> <p>第1章 都市景観基本計画改訂の前提</p> <p>1-1 景観とは</p> <p>1-2 都市景観基本計画改訂の背景</p> <p>1-3 都市景観基本計画改訂版の位置づけ・構成</p> <p>第2章 枚方市の景観特性</p> <p>2-1 枚方市の景観の成り立ち</p> <p>2-2 枚方市の景観の特徴</p> <p>2-3 枚方市の景観構造</p> <p>第3章 景観づくりの目標と方針</p> <p>3-1 景観づくりの目標</p> <p>3-2 景観形成の課題</p> <p>3-3 魅力づくりのテーマと基本方針</p> <p>(1)魅力づくりのテーマ</p> <p>(2)魅力づくりのテーマを実現するための基本方針</p> <p>3-4 類型別景観形成の方向</p> <p>(1)都市景観の類型分類</p> <p>(2)都市の骨格景観</p> <p>(3)地区タイプ別</p> <p>第4章 地域への展開</p> <p>4-1 地域区分</p> <p>(1)景観地域・景観区域の区分</p> <p>(2)景観軸</p> <p>4-2 区域別・景観軸別の展開</p> <p>(区域別)</p> <p>(1)枚方市駅周辺景観区域</p> <p>(2)樟葉駅周辺景観区域</p> <p>(3)北部景観区域</p> <p>(4)中部景観区域</p> <p>(5)南西部景観区域</p> <p>(6)南部景観区域</p> <p>(7)中南部景観区域</p> <p>(8)中東部景観区域</p> <p>(9)東部景観区域</p> <p>(景観軸別)</p> <p>(10)国道1号・170号景観軸</p> <p>(11)第二京阪道路景観軸</p> <p>(12)淀川景観軸</p> <p>(13)穂谷川景観軸</p> <p>(14)天野川景観軸</p>	<p>章立て構成の変更</p> <p>改訂内容に応じて追加</p> <p>見出しの変更は多少あるものの内容を踏襲</p>	<p>枚方市都市景観基本計画 目次</p> <p>序 枚方の新たな魅力を創る</p> <p>第1章 基本計画の前提</p> <p>1-1 景観形成の考え方</p> <p>1-2 枚方市の景観特性</p> <p>1-3 枚方市の景観を特徴づけるフレーム</p> <p>第2章 景観形成の方向</p> <p>2-1 景観の現状と課題</p> <p>2-2 魅力づくりのテーマと基本方針</p> <p>(1)魅力づくりの3つのテーマ</p> <p>(2)3つのテーマを実現するための基本方針</p> <p>2-3 類型別基本計画</p> <p>A.都市骨格</p> <p>(1)ターミナル拠点景観</p> <p>(2)道路軸景観</p> <p>(3)河川軸景観</p> <p>(4)眺望景観</p> <p>B.地区タイプ</p> <p>(1)緑地景観</p> <p>(2)住宅地景観</p> <p>(3)商業・業務地景観</p> <p>(4)工業地景観</p> <p>(5)歴史景観</p> <p>第3章 地域への展開</p> <p>3-1 地域別基本計画</p> <p>(1)枚方市駅周辺地域</p> <p>(2)樟葉駅周辺地域</p> <p>(3)東部地域</p> <p>(4)淀川沿川地域</p> <p>(5)穂谷川沿川地域</p> <p>(6)天野川沿川地域</p> <p>(7)国道1号沿道地域</p> <p>(8)北部地域</p> <p>(9)中部地域</p> <p>(10)南部地域</p>

項目	改訂案	時点修正の内容	現 行
目次	<p>第5章 景観形成推進に向けて</p> <p>5-1 景観形成の主体と役割</p> <p>5-2 公共事業における景観形成</p> <p>5-3 景観形成の推進方策</p> <p>(1)推進体制づくり</p> <p>(2)市民・事業者の参画の推進</p> <p>(3)景観に係る制度の活用</p> <p>巻末資料</p> <p>資料1 枚方市都市景観基本計画改訂の経緯</p> <p>資料2 用語解説</p>	改訂内容に応じて変更	<p>第4章 景観形成の方策</p> <p>4-1 景観形成推進のために</p> <p>(1)公共事業における景観形成</p> <p>(2)関連制度の活用と充実</p> <p>(3)体制づくり</p> <p>4-2 市民参加による景観形成のために</p> <p>(1)みんなで考える景観づくり</p> <p>(2)市民参加の促進</p> <p>巻末資料</p>

項目	改訂案	時点修正の内容	現 行
序 P1～P2	<p>序章・枚方の新たな魅力をつくる</p> <p>古くから、人や物資の重要な交通路として利用されてきた淀川、百済寺や桜の花を詠まれた渚の院など、都人との関係も深い地であった枚方。現在の姿が形づくられたのは、東海道を枚方宿が設けられた江戸時代の頃にまで遡ります。その後、東海道の宿駅と淀川の舟運によって栄えた枚方も、明治以降、鉄道の発達と共にまちの姿は徐々に現在の姿へと変わり始めました。</p> <p>昭和30年代から、当時東洋一といわれた香里団地の建設をきっかけに枚方は住宅都市としての道を歩み始め、40年代に入ると市街地開発は急激に進行し、人口の急増から学校建設など公共施設が整備されましたが、機能性や効率性を重視したあまり、美しさや快適さが十分に満たされたまちづくりが行われてきたとは言えませんでした。</p> <p>やがて、都市部への人口集中の時代から都市に定住する時代に入ると人々の関心は身近な環境へと移り、生活が豊かになるにつれて精神的・文化的豊かさが求められるようになりました。</p> <p>そして、近年、地球規模の環境問題が大きくとりあげられ、東日本大震災以後、将来のエネルギーへの関心が高まると、自然や環境との共生や地球にやさしい都市づくりの必要性を、ひとり一人が自分自身の問題としてとらえるようになりました。</p> <p>このような変化の中、景観という視点から生活を取り巻くまちなみを考えるとき、私たちは、何をまもり、何をはぐくみ、何をつくるべきなのでしょう。</p> <p>枚方には先人によって築きあげられた独自の文化や歴史、生活と一体となり形成された里山や田園、「生駒のみどり」「淀川のみず」に代表される豊かな自然があります。こうした風土や自然が枚方の個性的な景観の基本をつくっています。</p> <p>このような要素を活かし、文化や歴史を感じ、自然と親しみ、豊かで、潤いのあるまちをめざし、訪れたい、住みたい、住み続けたいと思える魅力的なまちづくりが求められています。</p> <p>そのために不可欠なもの。それは、まちをデザインすること。</p> <p>都市の美しさ・都市に住む快適さ・都市に遊ぶ楽しさ・自然環境との調和などを重視し、新たな魅力をまちにつくりだすことです。</p> <p>景観形成には継続的な努力と時間がかかります。そして、景観は、まちづくりに係わるすべての人々の意識とそれに基づく行動によってまもられ、はぐくまれ、つくられます。</p> <p>この「枚方市都市景観基本計画」では、  <b>『枚方の新たな魅力をつくる』</b>  <b>～ 自然と歴史と人を紡ぐ ひらかたの新しい景観づくり ～</b>            を景観づくりの目標として、市民・事業者・行政が連携し、枚方のもつ風土や特性を活かしながら、枚方市がめざす将来の都市像の実現に向け、基本的な方向を景観という面から示していきます。</p>	<p>概ね内容を踏襲し、必要に応じて時点修正を加える。</p>	<p>序・枚方の新たな魅力を創る</p> <p>このまちには、どんな時が流れてきたのだろう？</p> <p>枚方の現在の姿がかたちづくられたのは江戸時代、東海道を枚方宿が設けられた頃にまで遡ります。</p> <p>昭和30年代後半、当時東洋一といわれた香里団地の建設をきっかけに本市は住宅都市としての道を歩み始めます。やがて40年代に入ると市街地開発は急激に進行し、人口の急増から学校建設など公共施設の整備に追われるなか、機能性や効率性を重視したあまり、美しさや快適さが十分満たされたまちづくりが行われてきたとはいえませんでした。</p> <p>近年になって、人口の増加もようやく落ち着きを見せ、住宅都市としての枚方は、新しい段階を迎えたいと言えます。</p> <p>今、私たちがまちに求めるものは？</p> <p>都市部への人口集中の時代から都市に定住する時代に入り、人々は身近な環境に目を向けはじめ、生活が豊かになるにつれて意識や価値観が変化し、精神的・文化的豊かさが求められるようになりました。</p> <p>また地球規模の環境問題がクローズアップされる時代を迎え、自然や環境との共生や地球にやさしい都市づくりが、社会的なテーマとして取り上げられています。</p> <p>そうしたなか、市民ニーズも住環境のゆとりや落ち着き、自然の豊かさといったものを将来の都市像に求めるようになった今、うるおいや地域の歴史、文化の感じられる新たな都市空間の創造が求められています。</p> <p>どうすればよいのだろう？なにが必要なのだろう？</p> <p>新たな都市空間づくりに必要なもの。</p> <p>それは、都市の美しさ・都市に住む快適さ・都市に遊ぶ楽しさなど、多様化した人々のニーズを満たす魅力を都市の中につくりあげていくことだと考えます。</p> <p>枚方には先人によって築きあげられた独自の文化や歴史、「生駒のみどり」「淀川のみず」に代表される豊かな自然があります。</p> <p>このような素材を生かし、心と生活にうるおいと豊かさを与える都市づくりを目指すとき、そこには「景観」という新たな視点に立った、住む人、働く人、そして訪れる人にとっても魅力的なまちづくりが必要と考えます。</p> <p>みんながともに手をとり新たな魅力を創る！</p> <p>この「枚方市都市景観基本計画」では、『枚方の新たな魅力を創る』をテーマとして、枚方のもつ風土や特性を生かしながら、市民・事業者・行政が一体となって枚方市が目指す将来の都市像を、主に景観という面から創るための基本的な方向を示していきます。</p> <p>写真：樟葉駅前、淀川            図：都市景観基本計画の流れ</p>

	改訂案	時点修正の内容	現 行
<p>第1章 1-1 P3</p>	<p>第1章 都市景観基本計画改訂の前提</p> <p>1-1 景観とは</p> <p>都市景観とは</p> <p>私たちが都市を眺めるとき、一般的にはそれらをかたちづくっている道路や建築物をはじめ、木々の緑や水、生き物などの自然を含むものを風景としてとらえます。しかし、都市や地域のイメージはそのような視覚的なものだけではなく、都市の歴史や文化あるいは人々の生活の表れを五感でとらえたときに生まれてきます。</p> <p>そのような感性に訴える「都市の風景や姿」を都市景観といいます。</p> <p>それゆえに景観は、それぞれの都市の文化を表すバロメーターとしての一面を持っているともいえます。</p> <p>また優れた景観という場合、単に視覚的に美しいだけでは十分とはいえません。都市を構成する自然や人工的な要素が互いに調和を保ちながら、それぞれの魅力を引き出している必要があります。いきいきとした人々の暮らしぶりや、都市のにぎわいが感じられる景観は、住む人の愛着を高めると同時に訪れる人々に深い印象を与えます。</p> <p>こうした景観は一朝一夕にできるものではありません。そこに生活する人々が手を取り力を合わせ、生き方、暮らし方を後世に伝える意思をもちながら長い年月をかけて育てていくことが大切です。</p> <p><b>景観形成の担い手と役割</b></p> <p>景観形成には市民・事業者・行政が一体となった取り組みが不可欠です。そのためにはこれら三者が景観形成の担い手としての役割を理解し、互いに協力していく必要があります。</p> <p>《市民・事業者の役割》</p> <p>市民・事業者は、自らの生活や事業活動が地域の景観形成に大きく影響することを認識し、望ましいまちの姿を地域ぐるみで考えていくとともに、その実現のために積極的に取り組みます。</p> <p>《行政の役割》</p> <p>行政は市民合意のもと、まちなみの整備を先導的、計画的に行っていくとともに、市民参加による景観づくりのための仕組みを整えていきます。</p> <p>図：景観形成の役割</p> 	<p>内容を踏襲</p> <p>章立て構成の変更 内容を踏襲</p>	<p>第1章 基本計画の前提</p> <p>1-1 景観形成の考え方</p> <p>都市景観とは</p> <p>私たちが都市を眺めるとき、一般的にはそれらをかたちづくっている道路や建物をはじめ、木々の緑や水、生き物などの自然を含むものを風景として捉えます。しかし、都市や地域のイメージはそのような視覚的なものだけではなく、都市の歴史や文化あるいは人々の生活の表れを五感で捉えたときに生まれてきます。</p> <p>そのような感性に訴える「都市の風景や姿」を都市景観といいます。</p> <p>それゆえに景観は、それぞれの都市の文化を表すバロメーターとしての一面を持っているともいえます。</p> <p>また優れた景観という場合、単に美的なだけでは十分とはいえません。都市を構成する自然や人工的な要素が互いに調和を保ちながら、それぞれの魅力を引き出している必要があります。いきいきとした人々の暮らしぶりや、活気ある都市の活動が感じられる景観は、住む人の愛着を高めると同時に訪れる人々に深い印象を与えます。</p> <p>こうした景観は一朝一夕にできるものではありません。そこに生活する人々が手を取り力を合わせ、生き方、暮らし方を後世に伝える意思をもちながら長い年月をかけて育てていくことが大切です。</p> 

	改訂案	時点修正の内容	現 行
第1章 1 - 1 P4	<p><b>景観形成の対象領域</b></p> <p>都市空間は道路や河川などの公的空間と、これらと接する私的空間の2つに分けることができます。景観形成では公的空間だけではなく、私的空間のうち建築物の屋根・外壁・窓辺をはじめ、前庭・塀・生垣などの境界領域も重要な役割を担っています。</p> <p>例えば、道路の景観を整えても、道路に面した建築物のファサードや庭先の木々などの調和が図られなければ良好なまちなみとはいえません。</p> <p>このように、まちづくりの上では公的領域と境界領域を一体的に考えなければならないため、これらを併せて景観形成の対象領域とします。</p> <p>また、見る人がいるからこそ景観があるため、見る人が位置する全体の地域環境やその背景となる遠景も考慮しなければなりません。</p> <p>図：景観形成の対象領域</p> <div data-bbox="230 582 645 911" data-label="Diagram"> </div> <div data-bbox="497 935 1039 1235" data-label="Diagram"> </div>	<p>時点修正の内容</p> <p>章立て構成の変更 内容を踏襲</p> <p>追記</p>	<p>現 行</p>

	改訂案	時点修正の内容	現 行
第1章 1 - 2 P5	<p>1 - 2 都市景観基本計画改訂の背景</p> <p><b>改訂の背景</b></p> <p>平成6年の「枚方市都市景観基本計画」の策定から19年が経過し、市域においても土地利用の変化や新たな都市施設の整備、都市の骨格を成す主要道路の開通など、様々な変化が見られました。</p> <p>平成21年には、まちづくりの方針を示す「第4次枚方市総合計画 第2期基本計画」が策定されており、平成28年からは第5次の基本構想に基づく基本計画が策定されることとなります。一方、平成11年に策定された「枚方市都市計画マスタープラン」も平成23年に改定され、新たなまちづくりの方向性が示されています。また、国においても「景観法」の施行などによって新しい枠組みが準備されました。</p> <p>こうした状況の変化を踏まえ、「枚方市都市景観基本計画」の改訂を行うことが必要となりました。</p> <p><b>計画の役割</b></p> <p>都市景観基本計画とは、枚方市の景観まちづくりの基本的な目標となるものです。多くの人々が心地よいと感じる将来の景観ビジョンを明確にし、総合的かつ持続的に景観まちづくりを進めていくための計画となります。また、「景観法」に基づく「景観計画」「景観条例」の策定にあたっては、上位計画として位置づけられるものです。</p> <p>このため、都市景観基本計画では、枚方市が今後めざすべき景観形成の目標として基本方針を示し、その実現に向けた方策など景観づくりに取り組むための指針としての役割を担います。</p> <p><b>改訂の方針</b></p> <p>今回の改訂にあたっては景観形成に係わるこれまでの取り組みを踏まえるとともに、「景観法」の施行など様々な変化に対応するなど、下記事項を改訂の方針として見直しを行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現行の都市景観基本計画に沿って進めてきた取り組みを継承する。</li> <li>・ 新たな課題に対応する。</li> <li>・ 将来に向けた景観形成の推進の仕組みを整える。</li> <li>・ 都市景観基本計画改訂の初期段階から市民の意見を取り入れる。</li> <li>・ まちづくりに係わる計画との連携を図る。</li> </ul>	追記	(記載なし)



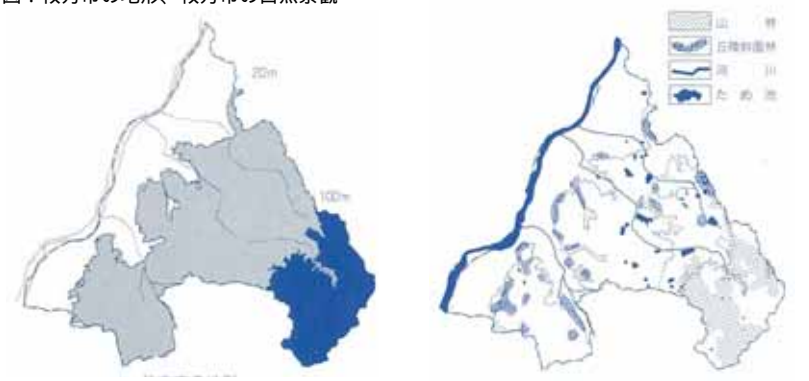
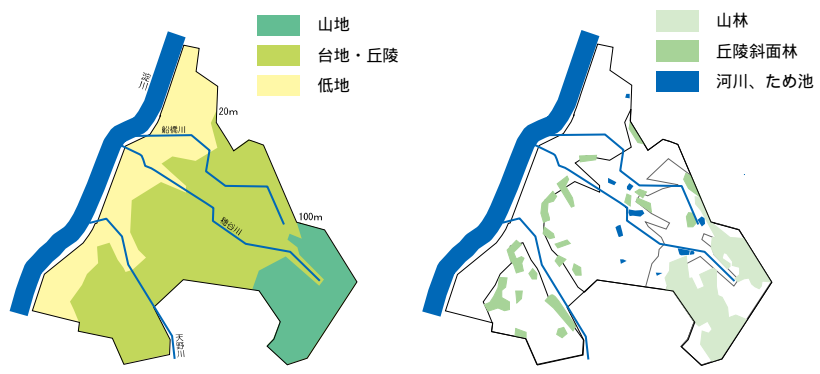
	改訂案	時点修正の内容	現 行
第1章 1 - 2 P6	<p>枚方市の景観形成に係るこれまでの取り組み</p> <pre> graph TD     A[平成6年3月 「枚方の新たな魅力を創る」を目標に 『枚方市都市景観基本計画』策定] --&gt; B[平成10年10月 『枚方市都市景観形成要綱』制定]     B --&gt; C[平成10年10月 『枚方市都市景観形成誘導指針』策定 「景観形成の手引き」作成 平成10年12月 『枚方市歴史的景観の保全等に係る助成金交付要綱』制定 『枚方市都市景観形成市民団体活動助成金交付要綱』制定]     C --&gt; D[平成11年1月 『枚方市都市景観形成要綱』施行]     D --&gt; E[平成17年6月 「美しい国づくり政策大綱」(平成15年) を踏まえ『景観法』施行]     E --&gt; F[平成20年 3月『大阪府景観条例』改正 4月『大阪府景観形成基本方針』改正 10月『大阪府公共事業景観形成指針』改正 10月『大阪府景観計画』策定]     F --&gt; G[平成25年 『枚方市都市景観基本計画』改訂]     H[平成10年10月 『大阪府景観条例』制定 『大阪府景観形成基本方針』制定 『大阪府公共事業景観形成指針』制定] --&gt; F   </pre>	<p>追記</p>	<p>(記載なし)</p>

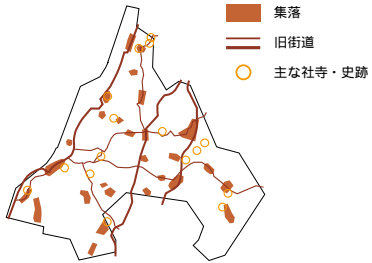
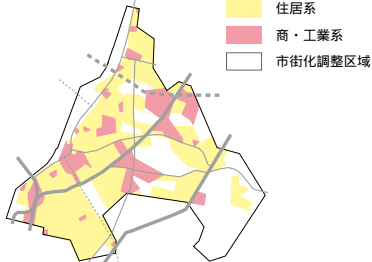


	改訂案	時点修正の内容	現 行
第1章 1-3 P7	<p>1-3 都市景観基本計画改訂版の位置づけ・構成            上位計画にみる位置づけ            都市景観基本計画は、まちづくりの総合的な方針を示した「第4次枚方市総合計画」に即し、「都市計画マスタープラン」などの「まちづくり」「都市づくり」に関する計画と相互に関連した計画として位置づけるものです。</p> <p>上位計画と景観基本計画・景観計画との関係</p>	<p>第4次総合計画の内容に変更して「1-3 都市景観基本計画改訂版の位置づけ・構成」に記載</p> <p>都市計画マスタープランの内容を、「1-3 都市景観基本計画改訂版の位置づけ・構成」に追記</p>	<p>枚方市総合計画に見るまちづくりと景観形成の考え方            枚方市は総合計画で、市民と行政の目指す都市の将来像を「緑と文化を育む、人と人とのふれあいのあるまち、枚方」として、その実現のため次の6つの施策の大綱を定めています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 豊かな緑とうるおいのあるまちづくりをめざす。</li> <li>2. 平和でふれあいのあるまちづくりをめざす。</li> <li>3. ゆとりのある教育と市民文化の創造をめざす。</li> <li>4. 健康で生きがいのあるまちづくりをめざす。</li> <li>5. 安全で快適な生活環境をめざす。</li> <li>6. 活力のあるまちづくりをめざす。</li> </ol> <p>景観形成はこの総合計画の中で、都市にゆとりや快適性、自然の豊かさといった魅力をつくりだすためのまちづくりの新たな視点として位置づけられています。</p> <p>また、平成4年に実施された市民意識調査では、市民が望む市の将来イメージとして「住環境がよい、ゆとりのあるまち」「自然が豊かな落ち着いたまち」が大半を占め、定住志向も高まっていることがうかがえます。</p> <p>住む人の一人ひとりが愛着と誇りを感じ、住み続けたいと願うような地域環境。また住む人だけでなく訪れる人にもいつも新鮮な感動を与える個性的な都市空間。まちにそうした「魅力」を創造し、育んでいくことが枚方にふさわしい景観形成と考えます。</p>

	改訂案	時点修正の内容	現 行
第1章 1 - 3 P8	<p>第4次枚方市総合計画（第2期基本計画）にみる景観形成の考え方</p> <p>枚方市がめざす「まちの将来像」を示し、まちづくりの総合的な方針である「第4次枚方市総合計画」においては、めざすべき「まちの姿」を『出会い・学びあい・支えあい、生きる喜びを創るまち、枚方』と定めています。</p> <p>この将来像を実現するために、まちづくりの基本目標と取り組みの基本的方向を掲げるとともに第2期基本計画ではその実現に向けた施策目標を定め、様々な事業を展開しています。その中で、市民が歴史・文化、自然、まち等との良好な関わりを持つための重要な要素である景観形成は、都市の潤いや快適性を高め、魅力を向上させていく重要な役割を担っています。</p> <p>景観に関わる主な基本目標と施策目標は以下のとおりです。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>【基本目標】</p> <p>人と自然が共生する環境保全のまち</p> <p>やすらぎのなか、世代をつないで住み続けるまち</p> <p>魅力にあふれ、生き生きとしたまち</p> <p>健康で心豊かな自立と共生のまち</p> <p>ふれあい、学びあい、感動できるまち</p> <p>みんなでつくる分権・市民参加のまち</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>【施策目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然空間と生態系を守る</li> <li>・人と自然との共生を図る</li> <li>・安全で快適なまちをつくる</li> <li>・美しいまち並みをつくる</li> <li>・「農」を守り、活かす</li> <li>・人が集い、魅力と活力あふれる中心市街地をつくる</li> <li>・東部地域の魅力を高める</li> <li>・文化観光資源を整備し、まちづくりに生かす</li> <li>・花と音楽を生かしたまちづくりを進める</li> <li>・地域における支えあいの輪をひろげる</li> <li>・芸術・文化活動の活性化を図る</li> <li>・歴史文化遺産を保存し、活用する</li> <li>・市民参加のまちづくりを進める</li> <li>・市民のまちづくり活動を促進する</li> </ul> </div> </div>		

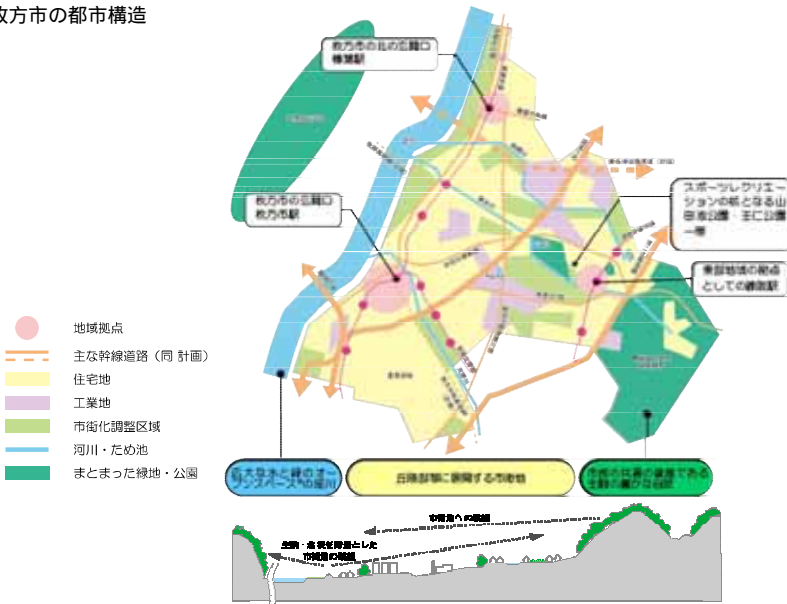
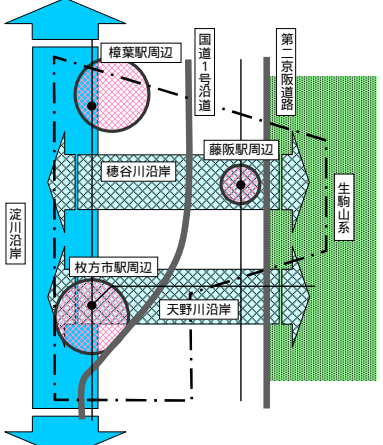
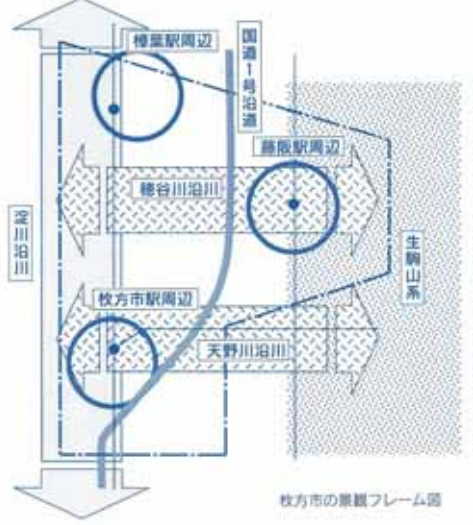
	改訂案	時点修正の内容	現 行
第2章 2 - 1 P9	<p><b>2 - 1 枚方市の景観の成り立ち</b></p> <p>枚方は京都・大阪・奈良の中間に位置し、いにしへの時代より、「淀川のみず」と「生駒のみどり」に育まれた豊かな風土に恵まれてきました。</p> <p>平安時代には交野台地は交野ヶ原と呼ばれ、貴族の遊獵地として、また桜の名所として広く知られていました。平安時代の歌人である在原業平（ありわらのなりひら）が渚院の桜を見て詠んだ歌</p> <p style="text-align: center;"><b>～世の中にたえて桜のなかりせば 春の心はのどけからまし～</b></p> <p>は、『伊勢物語』や『古今和歌集』にも収められ、桜の花のはかなさを詠んだ名歌として親しまれています。</p> <p>江戸時代に、京都、大坂を結ぶ京街道が整備され枚方宿が設置されると、枚方は枚方宿と淀川の舟運により京都・大坂間の交通の中心となり、宿場町として発展していくこととなります。往時の淀川の美しさは、シーボルトが淀川を船でさかのぼった折に、「祖国マインの谷を思い出させる」と賞賛したほどでした。</p> <p>一方、京街道が整備された西部とは対象に、東部では生駒山系に連なる丘陵部に里山の豊かな自然に溶け込んだ集落が点在し、また、船橋川・穂谷川沿ではため池や社寺林をもつ集落が形成されました。</p> <p>このような歴史の流れを受け継いできた枚方も、戦後の高度経済成長とそれに伴う急激な都市化により新たな市街地景観をつくり出し、現在では多様な景観を合わせ持つに至っています。</p>	追記	（記載なし）

	改訂案	時点修正の内容	現 行
第2章 2-2 P10	<b>2-2 枚方市の景観の特徴</b> 枚方市では、東部の生駒山系から西部の淀川にかけて、自然や歴史によって生まれ、人々の生活や経済・社会的条件を反映した様々な景観が見られます。都市化によってたとえどんなに景観が変化しても、風土や自然から完全に離れることはできず、これらが本市の個性的な景観の基本を形成しています。そうした景観構造を踏まえながら、枚方市に見られる景観の特性について分類・整理します。  <b>自然景観特性</b> 枚方市の地形は西から淀川左岸低地、台地・丘陵、東部山地と大きく3つの部分に分けられます。 淀川は広大な空間を有する河川で、河川敷には葦原やわんどなどの自然が残り、その堤防や市内の比較的高い場所からは北摂の山なみや生駒山系に至る壮大な眺望を得ることができます。また淀川には東部山地から船橋川・穂谷川・天野川、の3本の河川が流れ込んでおり、これらがある高い堤防からも広く市域を望むことができます。 一方、淀川左岸低地から東部山地にかけての市域中央部には微地形がみられ、淀川や3河川に沿った丘陵斜面地には多くの樹林が見られます。とりわけ光善寺から御殿山にいたる京阪本線沿いに連なる斜面林の緑は、枚方市の代表的な景観となっています。 また丘陵地の河川沿いには田園も多く、その周囲に点在する灌漑用のため池は、市街地にうるおいをもたらしています。 東部山地は南につながる生駒山系の前山であり、市街地の背景として豊かな四季を演出しています。また山間部では、棚田が良好な山里景観を見せています。  図：枚方市の地形、枚方市の自然景観	内容を踏襲  都市構造図の第二京阪などを修正し、「2-3 枚方市の景観構造」に移動   内容を踏襲 デス・マス調に変更	<b>1-2 枚方市の景観特性</b> 本市では、東部の生駒山系から西部の淀川にかけて、自然や歴史によって生まれ、人々の生活や経済・社会的条件を反映した様々な景観が見られます。そうした景観構造を踏まえながら、本市に見られる景観上の特性について分類・整理します。 図：枚方の都市構造  <b>自然景観特性</b> 本市の地形は西から淀川左岸低地・丘陵地・東部山地へと大きく3つの部分に分けられる。 淀川は広大な空間を有する河川で、河川敷には葦原やわんどなどの自然が残り、その高い堤防からは北摂から生駒に至る壮大な眺望を得ることができる。また淀川には東部山地から、天野川・穂谷川・船橋川の3本の河川が流れ込んでいるが、これらも高い堤防を有しており広く市域を望むことができる。 一方、淀川や3河川に沿った丘陵斜面地には多くの樹林が見られ、とりわけ光善寺から御殿山にいたる京阪本線沿いに連なる斜面林の緑は、本市の代表的な景観となっている。 また丘陵地の河川沿いには田園も多く、その周囲に点在する灌漑用のため池は、市街地にうるおいをもたらしている。 東部山地は南につながる生駒山系の前山であり、市街地の背景として豊かな四季を演出している。また山間部では、棚田や谷地田が良好な山里景観を見せている。 図：枚方市の地形、枚方市の自然景観



	改訂案	時点修正の内容	現 行
<p>第2章 2-2 P11</p>	<p><b>歴史景観特性</b></p> <p>枚方は古くから人々が定着して生活していたところで、市域にはそれを物語る遺跡や史跡が広く分布します。特別史跡に指定されている百済寺跡や国史跡牧野車塚古墳などは現在公園として活用されています。</p> <p>市域には古くからの農家集落が数多く存在します。その形態は集落によって様々であり、淀川低地部のまちに残る段蔵や山地集落の大和棟の民家などは当時の生活の姿を偲ばせます。また集落内の社寺は豊かな樹林に囲まれているものが多く、地域のランドマークとなっています。</p> <p>沿道の歴史的な家なみが残された集落景観として、旧枚方宿や高野街道沿いの出屋敷集落などがあり、特に、枚方の成り立ちを今に伝えている旧枚方宿のまちなみは、地域固有の景観として保全活動が取り組まれており、旧京街道の面影が観光資源としても注目されています。</p> <p>図：枚方市の歴史景観</p>  <p><b>市街地景観特性</b></p> <p>枚方市の市街地の大部分を占める住宅地は、西部の淀川低地から中部丘陵地、東部丘陵地にかけて広がりを見せています。</p> <p>香里団地を中心とした枚方丘陵一帯や樟葉駅周辺の住宅地、北山地区、津田地区等は、まちづくりの制度等も活用した大規模な計画的開発によるもので、緑豊かなゆとりあるまちなみを見せています。一方、京阪沿線には昭和40年代に建設された比較的小規模な住宅地も見られます。また、田園地帯には古くからの農家集落も点在します。</p> <p>商業・業務地は枚方市駅や樟葉駅をはじめとした駅前を中心に形成されています。その他国道1号など主要な幹線道路沿道にはロードサイド型の商業施設が連なっています。</p> <p>工業地の大半は交通の利便性が高い国道1号沿道に集中し、大規模にまとまっているものが多く、景観に大きな影響を与えています。</p> <p>図：枚方市の市街地景観</p> 	<p>その他の計画的開発地区（北山地区、津田地区など）の追記</p> <p>現在は樟葉の方が商業施設が集積しつつある。</p> <p>枚方宿の保全・整備等の取り組みを追記</p>	<p><b>歴史景観特性</b></p> <p>枚方は古くから人々が定着して生活していたところで、市域にはそれを物語る遺跡や史跡が広く分布する。特別史跡に指定されている百済寺跡や、牧野車塚古墳などは現在公園として活用されている。</p> <p>市域には古くからの農家集落が数多く存在する。その形態は集落によって様々であり、淀川低地部のまちに残る段蔵や山地集落の大和棟の民家などは当時の生活の姿を偲ばせる。また集落内の社寺は豊かな樹林に囲まれているものが多く、地域のランドマークとなっている。</p> <p>その他、枚方の成り立ちを伝えている枚方宿の町並みも、旧街道筋にその面影を留めている。</p> <p>図：枚方市の歴史景観</p>  <p><b>市街地景観特性</b></p> <p>本市の市街地の大部分を占める住宅地は、西部の淀川低地から中部丘陵地、東部丘陵地にかけて広がりを見せている。</p> <p>香里団地を中心とした枚方丘陵一帯や樟葉駅周辺の住宅地は大規模な計画的開発によるもので、緑豊かなゆとりあるまちなみを見せているが、一方、京阪沿線には昭和40年代に建設された比較的小規模な住宅地も見られ、また市域には旧くからの農家集落も点在する。現在、公的な住宅地として長尾地区や津田地区で開発が進められている。</p> <p>商業・業務地は枚方市駅をはじめとした駅前を中心に形成されている。その他国道1号など主要な幹線道路沿道にも郊外型の商業施設が並ぶ。</p> <p>工業地は交通の利便性からほとんどが国道1号沿道に集中する。それらは大規模にまとまっているものが多く、景観に大きな影響を与えている。</p> <p>図：枚方市の市街地景観</p> 

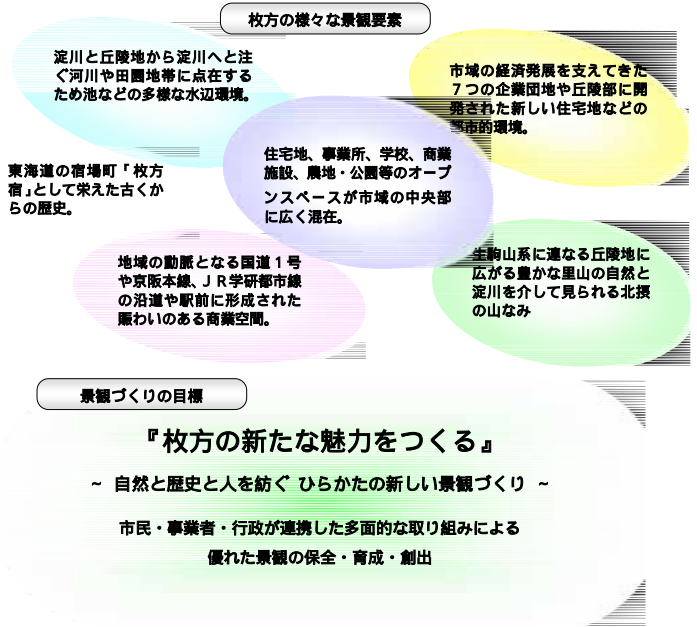


	改訂案	時点修正の内容	現 行
第2章 2 - 3 P12～P13	2 - 3 枚方市の景観構造 (1) 枚方市の都市構造 枚方市の都市構造は、東部に連なる生駒山系の山なみと西端部を成す大河・淀川の流りに狭まった平地を、淀川の流れと同方向の南北方向に国道1号、第二京阪道路が貫き、生駒山系から淀川へ向けて東西方向に、穂谷川、天野川が流れ、景観の基本的な骨格を形成しています。 図：枚方市の都市構造  (2) 景観のフレーム 景観特性や都市構造をもとに、枚方を象徴する景観を示す拠点区域や、今後景観形成を行うべき区域を景観のフレームとしてとらえます。 図：枚方市の景観フレーム図 	景観構造の説明を追記  景観フレームを、景観の骨格フレームに変更し、骨格となる景観について説明。	1 - 3 枚方の景観を特徴づけるフレーム 景観特性をもとに、枚方を象徴する景観を示す地域や、今後枚方の顔として、また主要な骨格軸として景観形成を行うべき地域を景観フレームとして捉えます。 図：枚方市の景観フレーム図  8つの景観フレーム 枚方市駅周辺 本市の商業・業務の中心、ターミナル機能の集中する枚方の顔といえる地域である。駅周辺は、淀川・天野川そして万年寺山に囲まれ自然及び歴史的な景観資源に恵まれている。近年、クラボウ敷地の再開発やひらかた水辺公園(仮称)の整備など様々なプロジェクトが計画されており、駅周辺はこれから大きく変わろうとしている。 樟葉駅周辺 本市の北の玄関口であり、住宅都市枚方のもう一つの顔となっている。駅前のくずはモールは枚方市駅に次ぐ商業の中心地で、周辺には計画的に開発された良好な住宅地が控えている。また、淀川や市民の森など景観資源にも恵まれた地域である。

	改訂案	時点修正の内容	現 行
第2章 2 - 3 P13 ~ P14	<p><b>【枚方市駅周辺】</b>            枚方市の商業・業務の中心、ターミナル機能が集中する枚方の顔といえる区域です。駅周辺は、淀川・天野川そして万年寺山に囲まれ自然および歴史的な景観資源に恵まれています。            また、駅の北方では、総合福祉施設や医療機関等が整備されてきました。また、淀川の河川敷では、ひらかた水辺公園も整備され、自然と歴史・文化が融合した区域を形成しつつあります。</p> <p><b>【樟葉駅周辺】</b>            枚方市の北の玄関口であり、住宅都市枚方のもう一つの顔となっています。駅前には、北河内有数の商業施設であるくずはモールや大規模な高層マンションなどが立ち並び、周辺には計画的に開発された良好な戸建て住宅地が広がっています。また、淀川や市民の森など自然も多く、景観資源にも恵まれた区域です。</p> <p><b>【藤阪駅周辺】</b>            藤阪駅周辺には、豊かな自然や昔の面影を今に伝える集落が残っています。その一方で関西文化学術研究都市構想に伴う産業拠点や住宅市街地、第二京阪道路の整備も進められてきました。また、隣接する王仁公園や山田池公園を中心とした緑とスポーツのエリアも形成されています。こうした条件を有する藤阪駅周辺は、周辺の自然環境と共生した東部地域の拠点に位置づけられており、周辺環境はこれからも大きく変化すると予想されます。</p> <p><b>【淀川沿岸】</b>            「淀川」は枚方の自然を象徴する重要な資源であり、古くから歴史や生活の舞台となっています。現在、その広大なオープンスペースは一部がレクリエーション空間として利用されています。沿岸の堤防上からは、北摂方面の山なみを背景に広大な河川空間が広がり、市街地方面には段丘面に連なる樹林等を望むことができます。</p> <p><b>【穂谷川沿岸】</b>            穂谷川は、穂谷集落の奥に源流を持ち、生駒の山なみと淀川を結び、水と緑の軸を形成しています。沿岸には歴史的な趣を残す集落やため池が点在し、上・中流域には田園風景が広がっています。また山田池公園・王仁公園など、レクリエーション施設も沿川に整備されています。</p> <p><b>【天野川沿岸】</b>            天野川は、生駒山地から交野・枚方両市を経て淀川へ注ぐ、北河内を代表する河川の一つです。七夕伝説をはじめ歴史と深い関わりを持ち、大阪府において、広域的に淀川と生駒を結ぶ水と緑のネットワーク軸の形成が目指されており、枚方市域は「にぎわい文化ゾーン」「はなやぎ暮らしゾーン」として位置づけられています。</p>	記載内容を時点修正	<p><b>藤阪駅周辺</b>            藤阪駅周辺には、豊かな自然や昔の面影を今に伝える旧集落が残っている。その一方で関西文化学術研究都市構想に伴う整備が予定されており、また新北河内地域広域行政圏計画においては隣接する王仁公園や山田池公園を中心とした緑とスポーツのエリアの形成が提言され、藤阪駅は新しい交通結節点として位置づけられていることから、周辺環境はこれから大きく変わることが予想される。</p> <p><b>淀川沿川</b>            「淀川のみず」として枚方の自然を象徴する地域であり、古くから歴史や生活の舞台となっていた地域である。            現在、その広大なオープンスペースは一部がレクリエーション空間として利用されている。沿川の堤防上からは、市街地の段丘面に連なる樹林を含む広大な展望を得ることができる。</p> <p><b>穂谷川沿川</b>            穂谷川は、穂谷集落の奥に源流を持ち、生駒の山なみと淀川を結び、水と緑の軸を形成している。            沿川には歴史的な趣を残す旧集落やため池が点在し、上・中流域には田園風景が広がる。また山田池公園・王仁公園など、レクリエーション施設も控えている。</p> <p><b>天野川沿川</b>            天野川は、生駒山地から交野・枚方両市を経て淀川へ注ぐ、北河内を代表する河川の一つである。            七夕伝説をはじめ歴史と深い関わりを持ち、大阪府の天野川環境整備計画でも「歴史ロマンと出会いの川」をテーマに、広域的に淀川と生駒を結ぶ水と緑のネットワーク軸として検討されている。枚方市域では「にぎわい文化ゾーン」「はなやぎ暮らしゾーン」として位置づけられている。</p> <p><b>国道1号沿道</b>            京都、大阪を結ぶ広域幹線道路であり、車窓からの沿道景観は枚方の一つの顔と言える。沿道には郊外型店舗が多く進出し、また工場や農地、住宅なども見られる。また橋詰などからは広大な展望景観を得ることができる。</p>



	改訂案	時点修正の内容	現 行
第2章 2 - 3 P14	<p><b>【国道1号沿道】</b>            京都、大阪を結ぶ広域幹線道路であり、車窓からの沿道景観は枚方の一つの顔と言えます。沿道には郊外型店舗が多く進出し、また工場や農地、住宅なども見られます。また橋詰などからは広大な展望景観を得ることができます。</p> <p><b>【第二京阪道路】</b>            生駒山系の山裾を通り、大阪、京都、北河内の各都市を結ぶ広域幹線道路であり、市街地と生駒山系との境界を成しています。「緑立つ道」として周辺地域との調和を図るための遊歩道などを設け、沿道には閑静な住宅地、大学、津田サイエンスヒルズ等が立地しています。</p> <p><b>【生駒山系】</b>            「生駒のみどり」は、枚方の自然を象徴する地域であり、特に国見山からの眺望は枚方八景にも数えられ、市民の身近な自然として親しまれています。山間地には、大和棟 など特徴的な文化を今に伝える穂谷などの里山の集落が残っている一方で、第二京阪道路の整備や関西文化学術研究都市としての産業・文化拠点の形成などの市街化も進み、徐々に新しいまちへと進展しつつあります。</p>	記載内容を時点修正・並び替え	<p>生駒山系</p> <p>「生駒のみどり」として枚方の自然を象徴する地域であり、特に国見山からの眺望は枚方八景にも数えられ、市民の身近な自然として親しまれている。</p> <p>山間地には、大和棟・素麺づくり・酒づくりなど特徴的な文化を今に伝える穂谷などの山里の集落が残っているが、一方では学研都市構想などにより市街化が進み、徐々に新しいまちへと進展しつつある。</p>

	改訂案	時点修正の内容	現 行
第3章 3 - 1 P15	<p>第3章 景観づくりの目標と方針</p> <p>3 - 1 景観づくりの目標</p> <p>枚方市は歴史・風土や地域の特性など様々な景観要素を合わせ持ち、これらを紡ぎあわせ枚方の新たな魅力をつくることにより、「住みたい・住み続けたいまち」の実現を図ります。</p> 	<p>内容を踏襲</p> <p>記載内容の時点修正</p>	<p>2 - 2 魅力づくりのテーマと基本方針</p>


	改訂案	時点修正の内容	現 行
<p>第3章 3 - 2 P16</p>	<p>3 - 2 景観形成の課題</p> <p>ここでは、枚方市の現在抱えている景観上の課題を、上位計画や基礎調査結果等の観点から整理し、今後進めていく景観形成の方向を探る手掛かりとします。</p> <p>(1) 自然と歴史の保全と活用</p> <p>枚方を象徴する自然の保全と活用</p> <p>広大なパノラマ景観を有しながら市の西部を流れる淀川と、東部に連なり壮大な緑のランドマークとなっている生駒山系の山々。これらは枚方を象徴する自然風景であるとともに、市域における貴重な自然資源です。</p> <p>しかしながら、淀川では高い堤防や幹線道路、鉄道等が市街地と河川空間とを隔てる位置にあるため、日常生活との関わりが希薄になっています。また生駒山系の山々では、その連続した緑の稜線の眺望が変化しつつあります。</p> <p>今後これらを、枚方を代表する景観資源としていかに守り、また活かしていくかが重要な課題です。</p> <p>市街地の身近な自然の保全と活用</p> <p>枚方市には、船橋川・穂谷川・天野川をはじめとする河川と古くからの灌漑用のため池が多く残っており、これらは身近な水辺空間として枚方の特徴と言える貴重な景観資源です。また、市街地に残る農地も貴重な緑のオープンスペースであり、丘陵斜面地に残る樹林や社寺林などを背景にしたまちの風景とともに、現在の枚方の特徴と言えます。</p> <p>しかしながら開発などに伴い、ため池、農地や斜面林は減少傾向にあります。</p> <p>今後、丘陵地などでは周辺との調和や樹林の保全、緑化を図り、また、農地や水辺空間などでは景観資源としてだけでなく都市の中の身近な自然とのふれあいの場や健康に寄与する生活に溶け込んだレクリエーション空間として活かしていくことも重要です。</p> <p>歴史の息づく景観の保全と活用</p> <p>古いまちなみや百濟寺跡などは、人をひきつけ歴史の重みを感じさせる重要な景観資源です。枚方市には、かつての街道沿いに中世から近世にかけての集落や宿場町の風情が残っているところも少なくありません。その中でも、枚方宿や招提の寺内町、春日の環濠集落などは歴史的価値も高いです。特に、枚方宿においては、地域が主体となって歴史的景観の保全活動や町家を活かした商業施設の整備等を進めており、歴史的雰囲気や散策する観光客などが訪れるようになってきました。</p> <p>また、穂谷・尊延寺の大和棟の民家や三矢・磯島の段蔵などは、枚方市の風土を表すものとして貴重です。</p> <p>しかしながら住宅の建て替えなどに伴い歴史的な景観が失われることも危惧されます。</p> <p>今後は、地域の歴史的雰囲気を損なうことなく、まちの個性として有効に活かし、歴史的な景観と調和のとれたまちづくりを進め、地域資源としての枚方市の魅力を高めていかなければなりません。</p>	<p>内容を踏襲</p> <p>記載内容の時点修正 デス・マス調に変更</p>	<p>第2章 景観形成の方向</p> <p>2 - 1 景観の現状と課題</p> <p>ここでは、基本計画策定に先立って実施した基礎調査をもとに、枚方の現在抱えている景観上の課題を整理し、今後進めていく景観形成の方向を探る手掛かりとします。</p> <p>1) 自然と歴史の保全と活用</p> <p>枚方を象徴する自然の保全と活用</p> <p>広大なパノラマ景観を有しながら市の西部をながれる淀川と、東部に連なり壮大な緑のランドマークとなっている生駒山系の山々。これらはともに枚方を象徴する自然風景であるとともに、市域における貴重な自然資源である。</p> <p>しかしながら、淀川は高い堤防や幹線道路、鉄道に阻まれてアクセスが困難なため日常生活との関わりが希薄になっており、また生駒山系の山々は市街化の進行につれてその緑の稜線が次第に変化しつつある。</p> <p>今後これらを、枚方を代表する景観資源としていかに守り、また活かしていくかが重要な課題である。</p> <p>市街地の身近な自然の保全と活用</p> <p>本市には、船橋川・穂谷川・天野川をはじめとする河川と古くからの灌漑用のため池が多く残っている。これらは、身近な水辺空間として貴重な景観資源となり得る。</p> <p>今後は、景観資源として親水性を生かした整備、活用が望まれる。</p> <p>また、丘陵斜面地に残る樹林や社寺林などを背景にしたまちの風景は現在の枚方の特徴と言える。市街地に残る農地も貴重な緑のオープンスペースである。</p> <p>これらは、景観資源としてだけでなく都市の中の身近な自然とのふれあいの場として生かしていくことも重要である。</p> <p>歴史の息づく景観の保全と活用</p> <p>古い町並みは、人をひきつける歴史の重みを感じさせる。本市には、かつての街道沿いに中世から近世にかけての宿場町や集落の風情が残っているところも少なくない。その中でも、旧枚方宿や招提の環濠集落などは歴史的価値も高い。</p> <p>また、穂谷・尊延寺の大和棟の民家や三矢・磯島の段蔵などは、本市の風土を表すものとして貴重である。</p> <p>今後は、地域の歴史的雰囲気を損なうことのないように、調和のとれたまちづくりを進めなければならない。</p>

	改訂案	時点修正の内容	現 行
第3章 3 - 2 P17	<p>(2) 快適な地域環境(アメニティ)をそだてる</p> <p><b>市街地の緑空間の充実</b>            樹木に親しみ草花に触れ、季節感を感じられる環境が身近にあるということは、快適な地域環境を形成する上で不可欠です。  <b>しかし、街路樹や公園・広場など計画的な植栽を行った公共空間に対し、公共建築物周辺や住宅・工場地内の緑化は十分とは言えません。</b>            今後は、公共建築物周辺や住宅地・工業団地等の緑化を充実することが、うるおいと安らぎのある景観形成を進める上で重要です。</p> <p><b>個性を活かした良好なまちなみ景観の形成</b>            住宅地は市民の最も身近な生活空間であり、地域コミュニティと豊かな生活文化を育む基盤です。地域への愛着を高めるためには、良好な環境の住宅地を形成することが大切です。            今後、土地利用の変化による開発や既存住宅地での建て替えなどが予想され、地域の個性を活かした良好なまちなみ景観を形成することが求められています。</p> <p><b>景観阻害要因への対策</b>            駅前や商業地などの違法駐車や放置自転車、乱立する看板などは、都市景観を阻害している要因の一つです。また、幹線道路の沿道を中心に沿道立地型の商業施設の集積に伴って、大型の屋外広告の乱立が目立つようになり、道路景観が阻害されつつあります。            今後、景観を阻害している要因を除去・改善していくとともに、市民の景観に対する意識を高めマナーの向上を図ることが必要です。</p> <p><b>安全・快適なまちづくり</b>            市民にとって生活環境の安全性や快適性は必要不可欠です。枚方市では既に公共空間において高齢者や障害者などに配慮した誰もが利用しやすい施設整備を進めてきましたが、まだ一部では、歩車分離や段差の解消といった問題も残っています。誰もが安全で快適に過ごせるまちづくりのために、ユニバーサルデザインを採用しながら、建築物や道路、公園などの公共施設の整備を進めていく必要があります。</p>	<p>内容を踏襲</p> <p>記載内容の時点修正</p>	<p>2) 快適な地域環境(アメニティ)をそだてる</p> <p><b>公園整備や緑化推進などによる市街地の緑空間の創造</b>            樹木に親しみ草花に触れ、季節感を感じられる環境が身近にあるということは、快適な住環境を形成する上で不可欠である。            今後、公園整備や沿道緑化の充実を図ることが、うるおいと安らぎのある景観形成を進める上で重要である。</p> <p><b>良好ないえなみの形成</b>            住宅地は市民の最も身近な生活空間であり、地域コミュニティと豊かな生活文化を育む基盤である。地域への愛着を高めるためには、良好な環境の住宅地を形成することが大切である。            今後、地域の個性を生かした良好な家並み景観を形成することが求められている。</p> <p><b>景観阻害要因への対策</b>            駅前や商業地などの違法駐車や放置自転車、乱立する看板などは、都市景観を阻害している要因の一つである。            今後、景観を阻害している要因を除去・改善していくとともに市民の景観に対する意識の高揚とマナーの向上を図ることが必要である。</p> <p><b>安全・快適なまちづくり</b>            市民にとって、生活環境の安全性や快適性は必要不可欠のものである。            本市では既に公共空間において高齢者や障害者に配慮した施設整備を進めてきたが、まだ一部では、歩車分離や段差の解消といった問題も残している。誰もが安全で快適に過ごせるまちづくりのためには、高齢者や障害者にも配慮しながら、建築物や道路、公園などの公共施設の整備を進めていく必要がある。</p>

	改訂案	時点修正の内容	現 行
第3章 3 - 2 P18	<p>(3) 都市の魅力をつくる</p> <p>枚方市駅周辺の景観整備の必要性</p> <p>枚方市駅は、枚方市の玄関口であり、駅周辺は枚方市の中心商業地としてにぎわいを見せてきましたが、社会経済情勢の低迷が続くなかで大型店舗の相次ぐ撤退や店舗の減少などがみられ、にぎわいが薄れつつあります。また、北河内の行政の中核を担う官公庁施設をはじめ様々な都市機能が集中して立地していますが、建築物の多くが老朽化しつつあり、建て替えや改修の時期にさしかかりつつあります。一方、枚方市駅の北西部一体においては、再開発が進められラポールひらかた、メセナひらかた等の公的施設や関西医大付属病院等が整備され、新しい風景をつくり出しています。</p> <p>また、今後整備が予定されている総合文化施設も含め枚方市駅周辺を一体的に考えた枚方市駅周辺再整備ビジョンも策定されています。</p> <p>今後、ビジョンなどを踏まえ、41万人都市としての風格とにぎわいのある都市景観をつくっていく必要があります。</p> <p><b>生活・商業空間の充実</b></p> <p>枚方市駅周辺や樟葉駅前、ショッピングゾーンとしてにぎわいのある商業空間が形成されています。しかし、市内のその他の駅周辺には自然発生的に商店の集積が進んでいるところがあり、道幅が狭く道路や広場の整備も遅れ、駅利用者の増加とも相まって交通の渋滞が目立ちます。また一方では、国道1号等の幹線道路沿道を中心に大型の商業施設などの集積も見られます。</p> <p>今後の課題として、地域の生活拠点となる快適で魅力ある商業空間の形成や沿道立地型商業施設の景観の向上が望まれます。</p> <p><b>文化活動の充実</b></p> <p>枚方市では、輝きプラザきらら、中央図書館の整備等を進め、生活を豊かに彩る文化芸術活動の振興を図るとともに、市民の美意識や感性を磨き、まちの美しさへの関心を高めてきました。</p> <p>しかしながら、枚方市は京都・大阪ともに電車で30分圏内と利便性が高く、京都・大阪においてレクリエーションや文化・芸術活動等を行う傾向も強いとも言えます。</p> <p>今後は、総合文化施設等の整備を進めるとともに、更なる文化活動の充実を図ることにより、景観への関心やまちの活性化につなげ、まちの魅力を向上させることが必要です。</p> <p><b>うるおいのある沿道景観の形成</b></p> <p>道路は都市景観を形成する上で骨格となる重要な要素ですが、枚方市の道路は全体的に歩道が狭く、街路樹も少ない上に、沿道の景観が雑然としています。</p> <p>今後は、道路緑化や舗装などのデザイン、沿道の建築物との敷際の植栽などを工夫し、季節感や夜間の景観も配慮し、歩行者が快適に楽しく歩ける道路づくりを行う必要があります。</p>	<p>内容を踏襲</p> <p>記載内容の時点修正</p>	<p>3) 都市の魅力をつくる</p> <p>枚方市駅周辺の景観整備の必要性</p> <p>枚方市駅は、本市の玄関口であり、駅周辺は本市の中心商業地としてにぎわいを見せている。また、北河内の行政の中核を担う業務機能も集中している。</p> <p>現在、枚方市駅周辺では再開発他の各種事業が計画されているが、各々の事業が連携を取りながら、40万都市としての風格とにぎわいのある都心景観を創っていく必要がある。</p> <p><b>生活・商業空間の充実</b></p> <p>枚方市駅周辺や樟葉駅前、ショッピングゾーンとしてにぎわいのある商業空間が形成されている。しかし、市内のその他の駅周辺には自然発生的な商店街が形成されているところが多く、道幅が狭く道路や広場の整備も遅れ、駅利用者の増加とも相まって交通の渋滞が目立つ。</p> <p>今後の課題として、地域の生活拠点としての快適で魅力ある商業空間の形成が望まれる。</p> <p><b>文化活動の拠点となる施設整備の検討</b></p> <p>本市は京都・大阪とともに電車で30分圏内という地理的条件にあり、レクリエーションや文化・芸術活動のための利便性は高い。それは視点を変えると、市内にそうした需要を満たす環境があまり整っていないために、その両市において満たしているのが現状であるとも言える。</p> <p>地域に根ざした文化を育み、市民の美意識や感性を磨き、まちの美しさへの関心を高めるためにも、文化活動の拠点となる施設の整備が必要である。</p> <p><b>うるおいのある沿道景観をつくる</b></p> <p>道路は都市景観を形成する上で骨格となる重要な要素であるが、全体的に歩道は狭く街路樹も少ない上に、沿道の景観が雑然としている。</p> <p>道路緑化や舗装などのデザイン、沿道の建物との境界際の植栽などを工夫し、季節感や夜間の景観も配慮し、歩行者にも快適に楽しく歩ける道路づくりを行う必要がある。</p>

	改訂案	時点修正の内容	現 行
<p>第3章 3 - 3 P19</p>	<p>3 - 3 魅力づくりのテーマと基本方針</p> <p>ここでは枚方市の景観の形成の課題を踏まえ、枚方市の持つ風土や特性を活かしながら、市民の意識や社会的なニーズに応じた魅力づくりを行っていくためのテーマと基本方針を設定し、枚方市の景観づくりの基本的な指針としていきます。</p> <p>(1) 魅力づくりのテーマ</p> <p>「豊かな自然や歴史」をまもる</p> <p>西に淀川、東に生駒山系の山なみを望む自然に囲まれた枚方市は、市街地にも樹林や農地、ため池などが残り、自然が息づいています。また市域には様々な特徴のある歴史的なまちなみや地域文化が育まれています。</p> <p>今後ますます都市が変化していく中で、枚方市に残された豊かな自然や歴史の原風景を次世代に引き継ぐとともに、それらと親しむ機会をつくりだしていきます。</p> <p>「快適な地域環境」をはぐくむ</p> <p>住宅都市として成長してきた枚方市も、都市としての成熟期を迎えているといえます。人々の生活環境に対する価値観も変化する中、今後は機能的・量的整備にとどまらない、よりアメニティの高い地域環境の整備を進めていきます。</p> <p>「都市的な魅力」をつくる</p> <p>約41万人の人口を抱え、北河内の玄関口、行政の中核となっている枚方市。今後は国際化・情報化など社会の変化がますます進むなかで、外部との交流もさらに進むことが予想されます。そこで、枚方の都市としてのアイデンティティを高めるとともに、市民の誇りとなるような、洗練された都市的にぎわいや高い文化性が感じられる都市的な景観をつくっていきます。</p>	<p>内容を踏襲</p> <p>記載内容の時点修正</p>	<p>2 - 2 魅力づくりのテーマと基本方針</p> <p>(1) 魅力づくりの3つのテーマ</p> <p>ここでは、前項で整理した課題を踏まえながら、枚方に培われてきた固有の風土や文化、市民の意識や社会的なニーズに応じた魅力づくりを行っていくために、3つのテーマと基本方針を設定し、枚方の景観づくりの基本的な指針としていきます。</p> <p>「豊かな自然や歴史」をはぐくむ</p> <p>西に淀川、東に生駒山系の山なみを望む自然に囲まれた枚方市は、市街地にも樹林や農地、ため池などが残り、自然が息づいている。また市域には様々な特徴のある歴史的な町並みや地域文化が育まれている。</p> <p>今後ますます都市が変化していく中で、枚方市に残された豊かな自然や歴史の原風景を次世代に引き継ぐとともに、それらと親しむ機会をつくりだしていく。</p> <p>「快適な地域環境」をそだてる</p> <p>住宅都市として成長してきた枚方市も、近年になってようやく人口の増加が一段落し、都市としての成熟期を迎えているといえる。人々の生活環境に対する価値観も変化する中、今後は機能的・量的整備にとどまらない、よりアメニティの高い地域環境の整備を進めていく。</p> <p>「都市的な魅力」をつくる</p> <p>約40万人の人口を抱え、北河内の玄関口、行政の中核となっている枚方市。今後は国際化・情報化など社会の変化がますます進むなかで、外部との交流もさらに進むことが予想される。そこで、枚方の都市としてのアイデンティティを高めるとともに、市民の誇りとなるような、洗練された都市的にぎわいや高い文化性が感じられる都市景観をつくっていく。</p> <p>写真：イメージ写真3枚</p>

	改訂案	時点修正の内容	現 行
第3章 3 - 3 P20	<p>(2) 魅力づくりのテーマを実現するための基本方針</p> <p>「豊かな自然や歴史」をまもるために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 枚方を象徴する自然風景や市街地に残る自然資源を守り活かす</li> <li>・ 歴史的景観を守り、まちの記憶・地域の個性として活かす</li> </ul> <p>「快適な地域環境」をはぐくむために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自然が息づき、人々があたたかい“ぬくもり”を感じあえる場を創る</li> <li>・ 個性を活かしたゆとりある美しいまちなみを育む</li> <li>・ まちの景観を乱すものを取り除く</li> <li>・ 高齢者や障害者にやさしい地域環境を育む</li> </ul> <p>「都市的な魅力」をつくるために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ にぎわいと風格のある都市核を創る</li> <li>・ 生活を楽しみ文化に触れる地域の拠点をつくり育てる</li> <li>・ 四季のいろあいや一日の時のうつろいに変化する表情を楽しむ都市を演出する</li> </ul>	<p>内容を踏襲</p> <p>記載内容の時点修正</p>	<p>(2) 3つのテーマを実現するための基本方針</p> <p>「豊かな自然や歴史」をはぐくむために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 枚方を象徴する自然風景や市街地に残る自然資源を守り活かす</li> <li>・ 歴史的景観を守り、まちの記憶・地域の個性として活かす</li> </ul> <p>「快適な地域環境」をそだてるために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自然が息づき、人々があたたかい“ぬくもり”を感じあえる場を創る</li> <li>・ 個性を生かしたゆとりある美しいまちなみを育む</li> <li>・ まちの景観を乱すものを取り除く</li> <li>・ 高齢者や障害者にやさしい地域環境を育む</li> </ul> <p>「都市的な魅力」をつくるために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ にぎわいと風格のある都市核をつくる</li> <li>・ 生活を楽しみ文化に触れる地域の拠点をつくり育てる</li> <li>・ 四季のいろあいや一日の時のうつろいに変化する表情を楽しむ都市を演出する</li> </ul> <p>写真：イメージ写真9枚</p>

	改訂案	時点修正の内容	現 行																																						
第3章 3 - 4 P21	<p><b>3 - 4 類型別景観形成の方向</b>  <b>(1) 都市景観の類型分類</b>            都市の景観は様々な要素で構成されており、整備の方法も様々です。ここでは、枚方市の都市景観を構成している要素を抽出し、都市の骨格となる景観として4区分、地区別の面的な景観として5区分を抽出し、合計9区分に類型化しました。この類型に従い、それぞれの景観形成の方向を明らかにしていきます。</p> <table border="1" data-bbox="208 400 1041 1310"> <tr> <td data-bbox="208 400 622 1310"> <p><b>都市の骨格景観</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>線または点的に展開するまちの骨格となる要素です。</li> <li>まちを相互に関連づけ、または節目づけ、都市の構造を明確にします。</li> </ul> <p><b>ターミナル拠点景観</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主要ターミナル拠点</li> <li>その他のターミナル拠点</li> </ul> <p><b>沿道景観</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>広域道路</li> <li>主要な道路</li> <li>生活道路</li> </ul> <p><b>河川景観</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>広域都市河川</li> <li>都市河川</li> <li>小河川・水路</li> </ul> <p><b>眺望景観</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>眺望景観</li> <li>眺望点・眺望軸</li> <li>ランドマーク</li> </ul> </td> <td data-bbox="622 400 1041 1310"> <p><b>地区タイプ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>土地利用や成立過程において共通性を持った一定の面的な広がりを持った要素です。</li> <li>都市全体の景観の下地となります。</li> </ul> <p><b>緑地景観</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自然緑地</li> <li>田園地</li> <li>公園緑地</li> </ul> <p><b>歴史景観</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>集落</li> <li>歴史街道</li> <li>史跡・文化</li> </ul> <p><b>住宅地景観</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>計画的開発による戸建住宅地</li> <li>中高層住宅地</li> <li>一般住宅地</li> </ul> <p><b>商業・業務地景観</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中心商業・業務地</li> <li>近隣商店街</li> <li>郊外型商業施設</li> </ul> <p><b>工業地景観</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大規模工場・企業団地</li> <li>小規模工場群</li> </ul> </td> </tr> </table>	<p><b>都市の骨格景観</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>線または点的に展開するまちの骨格となる要素です。</li> <li>まちを相互に関連づけ、または節目づけ、都市の構造を明確にします。</li> </ul> <p><b>ターミナル拠点景観</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主要ターミナル拠点</li> <li>その他のターミナル拠点</li> </ul> <p><b>沿道景観</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>広域道路</li> <li>主要な道路</li> <li>生活道路</li> </ul> <p><b>河川景観</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>広域都市河川</li> <li>都市河川</li> <li>小河川・水路</li> </ul> <p><b>眺望景観</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>眺望景観</li> <li>眺望点・眺望軸</li> <li>ランドマーク</li> </ul>	<p><b>地区タイプ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>土地利用や成立過程において共通性を持った一定の面的な広がりを持った要素です。</li> <li>都市全体の景観の下地となります。</li> </ul> <p><b>緑地景観</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自然緑地</li> <li>田園地</li> <li>公園緑地</li> </ul> <p><b>歴史景観</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>集落</li> <li>歴史街道</li> <li>史跡・文化</li> </ul> <p><b>住宅地景観</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>計画的開発による戸建住宅地</li> <li>中高層住宅地</li> <li>一般住宅地</li> </ul> <p><b>商業・業務地景観</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中心商業・業務地</li> <li>近隣商店街</li> <li>郊外型商業施設</li> </ul> <p><b>工業地景観</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大規模工場・企業団地</li> <li>小規模工場群</li> </ul>	<p>内容を踏襲</p>	<p><b>2 - 3 類型別基本計画</b>  <b>都市景観の類型</b>            都市の景観は様々な要素で構成されており、そのタイプによって整備の方法も様々です。ここでは、枚方市の都市景観を構成している要素を抽出し、9つに分類・整理し、以下のように類型化しました。この類型に従い、それぞれの景観形成の方針を明らかにしていきます。</p> <p><b>A. 都市骨格</b>            線または点的に展開するまちの骨格となる要素。            まちを相互に関連づけまたは節目づけ、都市の構造を明確にする。</p> <table border="1" data-bbox="1281 427 2145 555"> <tr> <td>(1)ターミナル拠点景観</td> <td>(2)道路軸景観</td> <td>(3)河川軸景観</td> <td>(4)眺望景観</td> </tr> <tr> <td>主要ターミナル拠点</td> <td>広域幹線道路</td> <td>広域都市河川</td> <td>眺望景観</td> </tr> <tr> <td>その他のターミナル拠点</td> <td>地域幹線道路</td> <td>都市河川</td> <td>眺望点</td> </tr> <tr> <td>点</td> <td>生活道路</td> <td>小河川・水路</td> <td>ランドマーク</td> </tr> </table> <p>写真：イメージ写真4枚</p> <p><b>B. 地区タイプ</b>            面的な広がりを持った要素で、土地利用や成立過程において共通性を持った一定の地域的なまとまり。</p> <p>都市全体の景観の下地となる。</p> <table border="1" data-bbox="1281 735 2145 895"> <tr> <td>(1)緑地景観</td> <td>(2)住宅地景観</td> <td>(3)商業・業務地景観</td> <td>(4)工業地景観</td> <td>(5)歴史景観</td> </tr> <tr> <td>自然緑地</td> <td>計画的開発による戸建住宅地</td> <td>中心商業・業務地</td> <td>大規模工場・工業団地</td> <td>旧集落</td> </tr> <tr> <td>田園地</td> <td>中高層住宅地</td> <td>近隣商店街</td> <td>小規模工場群</td> <td>旧街道</td> </tr> <tr> <td>公園緑地</td> <td>一般住宅地</td> <td>郊外型商業施設</td> <td></td> <td>史跡・文化財</td> </tr> </table> <p>写真：イメージ写真5枚            図：枚方市の都市景観構造図</p> 	(1)ターミナル拠点景観	(2)道路軸景観	(3)河川軸景観	(4)眺望景観	主要ターミナル拠点	広域幹線道路	広域都市河川	眺望景観	その他のターミナル拠点	地域幹線道路	都市河川	眺望点	点	生活道路	小河川・水路	ランドマーク	(1)緑地景観	(2)住宅地景観	(3)商業・業務地景観	(4)工業地景観	(5)歴史景観	自然緑地	計画的開発による戸建住宅地	中心商業・業務地	大規模工場・工業団地	旧集落	田園地	中高層住宅地	近隣商店街	小規模工場群	旧街道	公園緑地	一般住宅地	郊外型商業施設		史跡・文化財
<p><b>都市の骨格景観</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>線または点的に展開するまちの骨格となる要素です。</li> <li>まちを相互に関連づけ、または節目づけ、都市の構造を明確にします。</li> </ul> <p><b>ターミナル拠点景観</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主要ターミナル拠点</li> <li>その他のターミナル拠点</li> </ul> <p><b>沿道景観</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>広域道路</li> <li>主要な道路</li> <li>生活道路</li> </ul> <p><b>河川景観</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>広域都市河川</li> <li>都市河川</li> <li>小河川・水路</li> </ul> <p><b>眺望景観</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>眺望景観</li> <li>眺望点・眺望軸</li> <li>ランドマーク</li> </ul>	<p><b>地区タイプ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>土地利用や成立過程において共通性を持った一定の面的な広がりを持った要素です。</li> <li>都市全体の景観の下地となります。</li> </ul> <p><b>緑地景観</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自然緑地</li> <li>田園地</li> <li>公園緑地</li> </ul> <p><b>歴史景観</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>集落</li> <li>歴史街道</li> <li>史跡・文化</li> </ul> <p><b>住宅地景観</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>計画的開発による戸建住宅地</li> <li>中高層住宅地</li> <li>一般住宅地</li> </ul> <p><b>商業・業務地景観</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中心商業・業務地</li> <li>近隣商店街</li> <li>郊外型商業施設</li> </ul> <p><b>工業地景観</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大規模工場・企業団地</li> <li>小規模工場群</li> </ul>																																								
(1)ターミナル拠点景観	(2)道路軸景観	(3)河川軸景観	(4)眺望景観																																						
主要ターミナル拠点	広域幹線道路	広域都市河川	眺望景観																																						
その他のターミナル拠点	地域幹線道路	都市河川	眺望点																																						
点	生活道路	小河川・水路	ランドマーク																																						
(1)緑地景観	(2)住宅地景観	(3)商業・業務地景観	(4)工業地景観	(5)歴史景観																																					
自然緑地	計画的開発による戸建住宅地	中心商業・業務地	大規模工場・工業団地	旧集落																																					
田園地	中高層住宅地	近隣商店街	小規模工場群	旧街道																																					
公園緑地	一般住宅地	郊外型商業施設		史跡・文化財																																					



改訂案

時点修正の内容

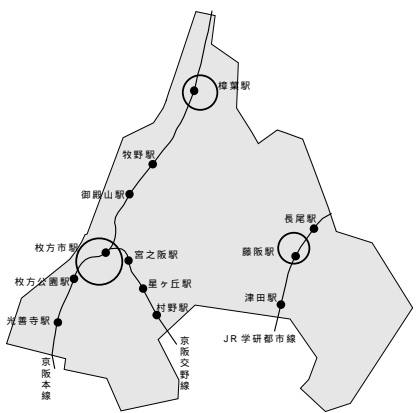

現 行



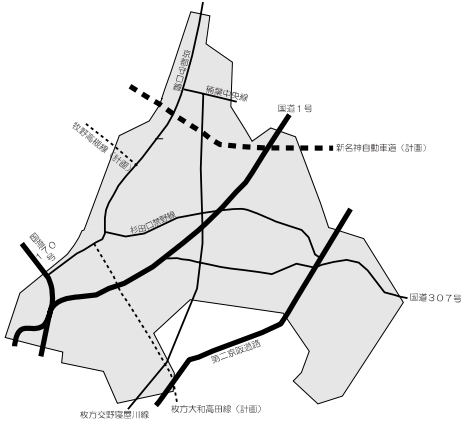





第3章  
3 - 4  
P22

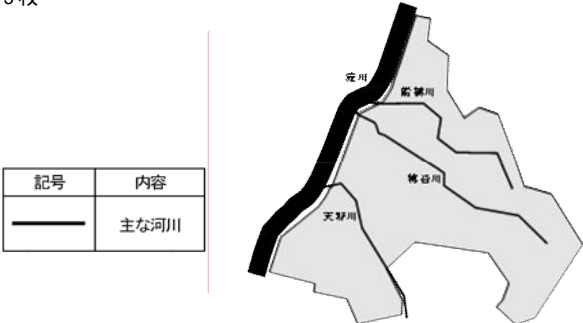

図：枚方市の都市景観構造図

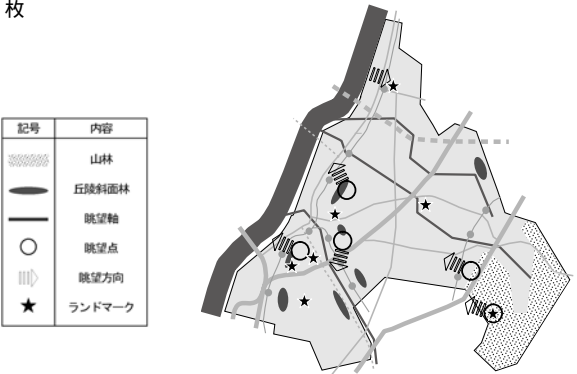
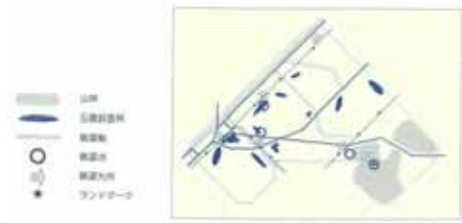


内容を踏襲

	改訂案	時点修正の内容	現 行						
第3章 3 - 4 P23	<p>(2) 都市の骨格景観</p> <p>ターミナル拠点景観</p> <p>枚方市には京阪9駅、JR3駅の計12駅があり、多くの人々が集まるターミナル拠点であると同時に、市や地域の核となっています。しかし、ターミナルとしての機能と核としての魅力を十分に兼ね備えているところはまだまだ少ないです。また、バスターミナルを有する駅では、人・車・自転車が錯綜し混雑の目立つ所も多く見られます。</p> <p>【景観形成の方向】</p> <p>ターミナル拠点としての基盤整備の充実を図るとともに、駅周辺地域を含めた総合的な視点から地域の核となる魅力にあふれにぎわいに満ちた場づくりを進めます。</p> <p>主要ターミナル拠点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・枚方の顔としてふさわしい、洗練され調和のとれた景観形成を図ります。</li> <li>・人や文化が交流する魅力と賑わいのある空間形成を図ります。</li> <li>・市の主要な交通結節点として、基盤整備の充実を図ります。</li> <li>・緑化を促進し、ゆとりある空間をつくりだします。</li> </ul> <p>その他のターミナル拠点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺のまちなみと調和した、地域の個性を活かした景観形成を図ります。</li> <li>・人々の憩いやふれあいの場の創造を図ります。</li> </ul> <p>写真：イメージ写真2枚</p> <p>図：鉄道路線図</p>  <table border="1" data-bbox="324 1141 515 1284"> <thead> <tr> <th>記号</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●</td> <td>鉄道・駅</td> </tr> <tr> <td>◎</td> <td>主要駅</td> </tr> </tbody> </table>	記号	内容	●	鉄道・駅	◎	主要駅	<p>内容を踏襲</p> <p>懇話会意見を反映する。</p>	<p>A. 都市骨格</p> <p>(1) ターミナル拠点景観</p> <p>【現状と課題】</p> <p>本市には京阪9駅、JR3駅の計12駅があり、多くの人々が集まるターミナル拠点であると同時に、市や地域の核となっている。しかし、ターミナルとしての機能と核としての魅力を十分に兼ね備えているところはまだまだ少ない。また、バスターミナルを有する駅では、人・車・自転車が錯綜し混雑の目立つ所も多く見られる。</p> <p>今後は、ターミナル拠点としての基盤整備の充実を図るとともに、地域の核となる魅力にあふれにぎわいに満ちた場づくりを進める。</p> <p>【景観形成の方向】</p> <p>主要ターミナル拠点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・枚方の顔としてふさわしい、洗練され調和のとれた景観形成を図る。</li> <li>・人や文化が交流する魅力ある空間形成を図る。</li> <li>・市の主要な交通結節点として、基盤整備の充実を図る。</li> </ul> <p>その他のターミナル拠点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺のまちなみと調和した、地域の個性を生かした景観形成を図る。</li> <li>・人々の憩いやふれあいの場の創造を図る。</li> </ul> <p>写真：イメージ写真2枚</p> <p>図：鉄道路線図</p> 
記号	内容								
●	鉄道・駅								
◎	主要駅								

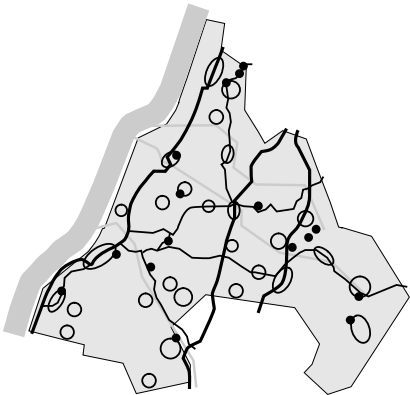

	改訂案	時点修正の内容	現 行						
第3章 3-4 P24	<p><b>沿道景観</b></p> <p>道路は都市のイメージをつくりあげる骨格であり、都市と都市をつなぐ広域幹線道路、地域を結ぶ地域幹線道路から、住宅地における生活道路まで様々な形態が存在し、沿道の施設と一帯となって主要な沿道景観を形成しています。しかし、流通や通行機能優先の整備が進められたため、うるおいのない雑然とした沿道景観となっている区間も多く見られます。</p> <p><b>【景観形成の方向】</b></p> <p>都市や地域の骨格にふさわしい安全で楽しみのある景観を育てていきます。</p> <p><b>広域道路</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緑化・維持管理を行うことにより、うるおいや統一感のある軸景観をつくりだします。</li> <li>・魅力ある沿道施設の集積を図るとともに、建築物や屋外広告物などは景観に配慮したものとします。</li> <li>・節目となる交差点において、修景やサインシステムなどによる特徴づけを行います。</li> </ul> <p><b>主要な道路</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歩車分離や自転車道整備を推進し、安全で快適な歩行者・自転車の通行空間を確保します。</li> <li>・街路樹や花による緑化を推進し、うるおいのある道路景観をつくりだします。</li> <li>・沿道の屋外広告物などを整理するとともに、まちなみとの調和を図ります。</li> </ul> <p><b>生活道路</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生垣や敷地内の緑化を推奨するとともに、ポケットパークなどふれあいの場を整備し、日常生活にうるおいや楽しさを演出します。</li> <li>・歩行者の安全性を高めるとともに、快適な道路環境をつくりだします。</li> <li>・地域の人々の参画により、地域の個性を活かした地域にふさわしいデザインを採用します。</li> </ul> <p>写真：イメージ写真3枚 図：道路図</p> <table border="1" data-bbox="264 1273 483 1412"> <thead> <tr> <th>記号</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>主な幹線道路</td> </tr> <tr> <td></td> <td>主な計画道路</td> </tr> </tbody> </table> 	記号	内容		主な幹線道路		主な計画道路	<p>内容を踏襲</p> <p>懇話会意見を反映する。</p>	<p>(2) 道路軸景観</p> <p><b>【現状と課題】</b></p> <p>道路は都市のイメージをつくりあげる骨格であり、都市と都市をつなぐ広域幹線道路、地域を結ぶ地域幹線道路から、住宅地における生活道路まで様々な形態が存在する。しかし、流通や通行機能優先の整備が進められたため、道路は往々にしてうるおいのない雑然とした沿道景観となっている場合が多い。</p> <p>今後は都市や地域の骨格にふさわしい安全で楽しみのある景観を育てていく。</p> <p><b>【景観形成の方向】</b></p> <p><b>広域幹線道路</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・うるおいや統一感のある軸景観を創りだすために、緑化を推進する。</li> <li>・魅力ある沿道施設の誘導を図り、建物や屋外広告物などについて景観上の配慮を促す。</li> <li>・節目となる交差点において、修景やサインシステムなどによる特徴づけを行う。</li> </ul> <p><b>地域幹線道路</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歩車分離を推進し、安全で快適な歩行者空間を確保する。</li> <li>・街路樹や花による緑化を推進し、うるおいのある道路景観をつくりだす。</li> <li>・沿道の屋外広告物や電柱を整理するとともに、まちなみとの調和を図る。</li> </ul> <p><b>生活道路</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生垣や敷地内の緑化を推奨するとともに、ポケットパークなどふれあいの場を整備し、日常生活にうるおいや楽しさを演出する。</li> <li>・ポネル化などの手法を用いることにより、歩行者の安全性を高めるとともに、快適な道路環境をつくりだす。</li> </ul> <p>写真：イメージ写真3枚 図：道路図</p> 
記号	内容								
	主な幹線道路								
	主な計画道路								

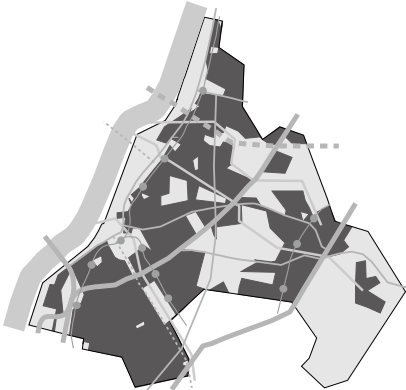
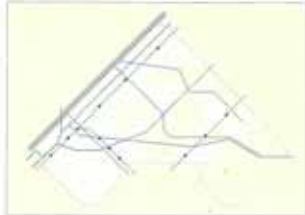
	改訂案	時点修正の内容	現 行
第3章 3 - 4 P25	<p><b>河川景観</b></p> <p>枚方地域の主な河川としては、広域都市河川である淀川と東部の生駒山系から市内を貫いて流れる3つの都市河川(船橋川・穂谷川・天野川)があります。これらは市域の貴重なオープンスペースとして、まちにうるおいをもたらす主要な要素となっています。しかし、これらの河川はいずれも堤防が高く、堤防上からは広く周辺地域を眺望することができる一方で、河川と市民の日常生活の場が分断されており、地域と密着しているとは言えません。また、ゴミの不法投棄や雑草が繁茂している区間も見られます。</p> <p>4河川の他にも支流となる小河川や水路が数多くありますが、無機的な整備が多く、水質が悪い区間や危険性のある区間も見られるため、人と水との関わりを疎遠にしています。一方で、小型の魚類や水生昆虫などが生息する区間も見られます。</p> <p><b>【景観形成の方向】</b></p> <p>市民が身近に水に親しみ自然とふれあうことのできる空間として活用していきます。</p> <p>広域都市河川</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>川の流れたに沿ったダイナミックで開放感のある自然景観の保全に努めます。</li> <li>市街地からのアクセスの確保と快適な歩行空間の整備、適切な維持管理により、誰もが利用しやすく、親しみやすい河川空間の創造を図ります。</li> </ul> <p>都市河川</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生態系に配慮した河川沿いの散策路や親水護岸を施し、自然と触れ合える水と緑の軸をつくります。</li> <li>河川の水景を活かしたまちづくりを推進します。</li> <li>地域性や歴史性を表現した橋のデザイン化を図るとともに、橋からの眺めを楽しむ憩いの場の整備を図ります。</li> </ul> <p>小河川・水路</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>河川・水路の修景や緑化、安全確保を推進し、親水水路や緑道としての活用を図ります。</li> <li>水質の浄化や親しみやすい生き物の生息環境の保全に努めます。</li> </ul> <p>写真：イメージ写真3枚 図：河川図</p> 	<p>内容を踏襲</p> <p>懇話会意見を反映する。</p>	<p>(3) 河川軸景観</p> <p><b>【現状と課題】</b></p> <p>本市の主な河川としては、広域都市河川である淀川と東部の生駒山系から市内を貫いて流れる3つの都市河川(船橋川・穂谷川・天野川)がある。これらは市域の貴重なオープンスペースとして、まちにうるおいをもたらす主要な要素となっている。しかし、これらの河川はいずれも堤防が高く、広く市域を眺望することができる反面、河川と市民の日常生活の場が分断されており、地域と密着しているとは言えない。</p> <p>また4河川の他にも、支流となる小河川や水路が数多くあるが、無機的な整備が多いため、人と水との関わりを疎遠にしている。今後は市民が身近に水に親しみ自然とふれあうことのできる空間として活用していく。</p> <p><b>【景観形成の方向】</b></p> <p>広域都市河川</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>川の流れたに沿ったダイナミックで開放感のある自然景観の保全を図る。</li> <li>市街地からアクセスし易くすることで誰もが使用でき、親しみやすい河川空間の創造を図る。</li> </ul> <p>都市河川</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生態系を保全するとともに、河川沿いに散策路や親水護岸を施し、自然と触れ合える水と緑の軸をつくる。</li> <li>河川の水景を生かしたまちづくりを推進する。</li> <li>地域性や歴史性を表現した橋のデザイン化を図るとともに、橋からの眺めを楽しむ憩いの場の整備を図る。</li> </ul> <p>小河川・水路</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>河川・水路の修景や緑化を推進し、親水水路や緑道としての活用を図る。</li> <li>水質の浄化や 保全を図る。</li> </ul> <p>写真：イメージ写真3枚 図：河川図</p> 

	改訂案	時点修正の内容	現 行
第3章 3 - 4 P26	<p><b>眺望景観</b></p> <p>市域の広がりをとらえるダイナミックな眺望景観は、国見山から一望することができます。また丘陵縁辺部や淀川などの堤防上からも市域の眺望を得ることができます。これらの眺望景観には、生駒山系や北摂連山・丘陵縁辺の緑地などが景観の背景として大きく寄与しています。また集落に残る社寺林や高層建築物、枚方パークの観覧車などは地域を印象づけるランドマークとなっています。しかしこれらの眺望は、背景の山の開発や建築物の大規模化などにより、変化しつつあります。</p> <p><b>【景観形成の方向】</b></p> <p>優れた眺望景観や眺望点・眺望軸、地域を印象づけるランドマークの保全・整備を図ります。</p> <p><b>眺望景観</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・枚方の景観の背景となる生駒山系や丘陵斜面地などの緑を保全します。</li> <li>・建築物や工作物等は眺望に配慮したものとするなど、良好な景観形成を図ります。</li> </ul> <p><b>眺望点・眺望軸</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国見山や丘陵、橋梁および堤防上などの良好な眺望が得られる眺望軸や眺望点の保全・活用を図るとともに、新たな眺望点を整備します。</li> <li>・良好な眺望景観を快適に楽しむための整備と管理を行います。</li> <li>・眺望空間への安全で快適なアプローチを確保します。</li> </ul> <p><b>ランドマーク</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のランドマークとなる社寺林や景観木などを保全します。</li> <li>・地域の目印となるような大規模建築物については、ランドマークとして景観に配慮したものとします。</li> <li>・ランドマークを景観資源として有効に活かすための周辺環境の整備を図ります。</li> </ul> <p>写真：イメージ写真3枚</p> <p>図：眺望地点図</p> 	<p>内容を踏襲</p> <p>懇話会意見を反映する。</p>	<p>(4) 眺望景観</p> <p><b>【現状と課題】</b></p> <p>市域の広がりをつめるダイナミックな眺望景観は、国見山から一望することができる。また丘陵縁辺部や淀川及び船橋川などの天井川の堤防上からも市域の眺望を得ることができる。そしてこれらの眺望景観には、生駒山系や北摂連山・丘陵縁辺の緑地などが景観のまとまりとして大きく寄与している。また集落に残る社寺林や高層建築物、枚方パークの観覧車などは地域を印象づけるランドマークとなっている。しかしこれらの眺望は、背景の山の開発や建築物の大規模化などにより、変化しつつある。</p> <p>今後は、優れた眺望景観や眺望点、地域を印象づけるランドマークの保全・整備を図る。</p> <p><b>【景観形成の方向】</b></p> <p><b>眺望景観</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・枚方の景観の背景となる生駒山系や丘陵斜面地などの緑を保全する。</li> <li>・良好な市街地景観の形成や誘導を図る。</li> </ul> <p><b>眺望点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国見山や丘陵、橋梁及び堤防上などの眺望点の保全・活用を図るとともに、新たな眺望点を創出する。</li> </ul> <p><b>ランドマーク</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のランドマークとなる社寺林や景観木などを保全する。</li> <li>・地域の目印となるような大規模建築物については、ランドマークとしての景観的配慮を促す。</li> </ul> <p>写真：イメージ写真3枚</p> <p>図：眺望地点図</p> 

	改訂案	時点修正の内容	現 行										
第3章 3 - 4 P27	<p>(3) 地区タイプ別</p> <p>緑地景観</p> <p>東部の生駒山系や淀川に沿った丘陵縁辺部に残る斜面林は、うるおいあるまちの背景として都市景観に大きく寄与しています。また市街地におけるオープンスペースとしての田園地や公園緑地、市域に点在する数多くのため池も、景観要素として重要なものです。しかしこれらの自然緑地は、市街化の進展に伴って徐々に失われつつあります。</p> <p>【景観形成の方向】</p> <p>緑地の保全・修復に努めるとともに、緑豊かなまちづくりを進めます。</p> <p>自然緑地</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東部山地をはじめ丘陵部および河川敷などに残る良好な自然緑地を保全します。</li> <li>・ 自然巡回路や野外活動施設の整備などにより、自然緑地をレクリエーション空間として活用します。</li> <li>・ 生態系に配慮した最小限の管理と自然地保全の重要性の周知・啓発活動を行います。</li> </ul> <p>田園地</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 良好な景観を形成している田園地を保全するとともに、都市の貴重なオープンスペースとして活かします。</li> <li>・ 安らぎや潤いを与える良好な農空間を保全するため、景観作物の栽培などにより、地域景観資源としての活用を図ります。</li> <li>・ ため池を適切に保全し、地域の景観資源として活用を図ります。</li> </ul> <p>公園緑地</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域毎の個性を活かして、子供から高齢者までが身近に楽しめる多様性のある公園緑地の整備を図ります。</li> <li>・ 送電線敷を利用した緑道により、緑の軸をつくりだします。</li> <li>・ 明るく、快適で利用しやすい公園となるよう維持向上に努めます。</li> </ul> <p>写真：イメージ写真3枚</p> <p>図：緑地等区域図</p> <table border="1" data-bbox="465 1273 638 1465"> <thead> <tr> <th>記号</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>山林</td> </tr> <tr> <td></td> <td>丘陵斜面林</td> </tr> <tr> <td></td> <td>田園地</td> </tr> <tr> <td></td> <td>主要公園緑地</td> </tr> </tbody> </table> 	記号	内容		山林		丘陵斜面林		田園地		主要公園緑地	<p>内容を踏襲</p> <p>懇話会意見を反映する。</p>	<p>B. 地区タイプ</p> <p>(1) 緑地景観</p> <p>【現状と課題】</p> <p>東部の生駒山系や淀川に沿った丘陵縁辺部に残る斜面林は、うるおいあるまちの背景として都市景観に大きく寄与している。また市街地におけるオープンスペースとしての田園地や公園緑地、市域に点在する数多くのため池も、景観要素として重要なものである。しかしこれらの自然緑地は、宅地開発が進み市街地が拡張するにつれて徐々に失われつつある。今後は緑地の保全・修復に努めるとともに、緑豊かなまちづくりを進める。</p> <p>【景観形成の方向】</p> <p>自然緑地</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東部山地をはじめ丘陵部及び河川敷などに残る良好な自然緑地を守る。</li> <li>・ 自然巡回路や野外活動施設の整備などにより、自然緑地をレクリエーション空間として活用する。</li> </ul> <p>田園地</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 良好な景観を形成している田園地を保全するとともに、都市の貴重なオープンスペースとして生かす。</li> </ul> <p>公園緑地</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市街地の身近なオアシスとなる公園緑地の整備を推進する。</li> <li>・ ため池を中心とした、水と緑に親しめる場の創造を図る。</li> <li>・ 送電線敷を利用した緑道整備により、緑の軸をつくりだす。</li> </ul> <p>写真：イメージ写真3枚</p> <p>図：緑地等区域図</p> 
記号	内容												
	山林												
	丘陵斜面林												
	田園地												
	主要公園緑地												



	改訂案	時点修正の内容	現 行								
第3章 3 - 4 P28	<p>歴史景観</p> <p>枚方市は古くから京都と大阪を結ぶ交通の要衝にあたり、現在も一部の街道や集落にはその面影が残っているところもあります。しかし、近年の建て替えや周辺の開発などによって徐々にその特徴が失われつつあります。一方、旧枚方宿においては、地域が主体となってまちなみの保全と再生の活動を進めており、旧京街道の面影を取り戻しつつあります。</p> <p>【景観形成の方向】</p> <p>各地区に残る歴史的たたずまいを地域の個性として保全し、貴重な景観資源として活用していきます。</p> <p>集落</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鎮守の森や土蔵、土塀、石垣など集落内の歴史を感じさせる資源を保全・活用します。</li> <li>・重要な景観を有する地区では地域にふさわしい景観形成を図ります。</li> </ul> <p>旧街道</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・街道沿いに残る歴史的まちなみや道標・燈籠・巨木などの資源を保全・活用します。</li> <li>・歴史を感じられる散策コースの整備を図ります。</li> <li>・広告物・標識・サインなどは歴史的なまちなみと調和を図ります。</li> </ul> <p>史跡・文化財</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・史跡や古墳などの歴史的遺産を地域の個性として保全・活用します。</li> <li>・歴史的資源に親しみやすくするため、案内板などの整備を図ります。</li> <li>・重要な史跡などと周辺が調和した景観形成を図ります。</li> </ul> <p>写真：イメージ写真3枚</p> <p>図：区域図</p> <table border="1" data-bbox="315 1238 535 1406"> <thead> <tr> <th>記号</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○</td> <td>集落・旧宿場町</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>旧街道</td> </tr> <tr> <td>●</td> <td>史跡・文化財</td> </tr> </tbody> </table> 	記号	内容	○	集落・旧宿場町	—	旧街道	●	史跡・文化財	<p>内容を踏襲</p> <p>懇話会意見を反映する。</p>	<p>(5) 歴史景観</p> <p>【現状と課題】</p> <p>本市は古くから京都と大阪を結ぶ交通の要衝にあたり、現在も一部の街道や集落にはその面影が残っているところもある。しかし、近年の建替や周辺の開発などによって徐々にその特徴が失われつつある。各地区に残る歴史的たたずまいを地域の個性として保全し、貴重な景観資源として活用していく。</p> <p>【景観形成の方向】</p> <p>旧集落</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鎮守の森や土蔵、土塀、石垣など集落内の歴史を感じさせる資源を保全・活用する。</li> </ul> <p>旧街道</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・街道沿いに残る歴史的町並みや道標・燈籠・巨木などの資源を保全・活用する。</li> <li>・歴史を感じながら散策できるみちすじの整備を図る。</li> </ul> <p>史跡・文化財</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・史跡や古墳などの歴史的遺産を地域の個性として保全・活用する。</li> <li>・歴史的資源に親しみやすくするため、案内板などの整備を図る。</li> <li>・</li> </ul> <p>写真：イメージ写真3枚</p> <p>図：区域図</p> 
記号	内容										
○	集落・旧宿場町										
—	旧街道										
●	史跡・文化財										


	改訂案	時点修正の内容	現 行				
第3章 3 - 4 P29	<p style="text-align: center;"><b>住宅地景観</b></p> <p>枚方市域では、香里団地や京阪沿線、丘陵地などにおいて、公的機関や民間による計画的な住宅地開発が進められました。しかし一方では、都市としての基盤整備が十分でないままに開発が進められた住宅地も多く、住区内はオープンスペースや緑に乏しいというおおいのない住環境となっている場合が見られます。</p> <p><b>【景観形成の方向】</b></p> <p>地域の個性を活かしながら、安全性、快適性にあふれたゆとりある住環境を創造していきます。</p> <p>計画的開発による戸建住宅地</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生垣緑化制度などを活用し、敷 際の緑化や庭の植栽により住宅地内の緑を保全・育成します。</li> <li>・公園・緑道などのオープンスペースを、個性ある地域のコミュニティ形成の場として活用します。</li> <li>・地区計画や建築協定などの活用によりまちなみを整えます。</li> </ul> <p>中高層住宅地</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆとりある住棟・緑の配置などを行い、周辺の住宅地との調和のとれた景観形成を図ります。</li> <li>・オープンスペースを確保することにより、うらおいある人々のふれあいの場の創造を図ります。</li> </ul> <p>一般住宅地</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生垣、宅地内緑化など、住宅地の個性に応じた緑化を推進します。</li> <li>・空地のポケットパーク化など、オープンスペースの確保に努めます。</li> <li>・周辺の既存の住宅やまちなみとの調和を図ります。</li> <li>・空き家や空き地は景観に配慮した管理をします。</li> </ul> <p>写真：イメージ写真3枚</p> <p>図：区域図</p> <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 20px;"> <table border="1" style="margin-right: 20px;"> <thead> <tr> <th>記号</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="background-color: black; width: 20px; height: 10px;"></td> <td>住宅地</td> </tr> </tbody> </table>  </div>	記号	内容		住宅地	<p>内容を踏襲</p> <p>懇話会意見を反映する。</p>	<p>(2)住宅地景観</p> <p><b>【現状と課題】</b></p> <p>本市では、香里団地や京阪沿線などにおいて、公共や民間資本による計画的な開発が進められた。しかし一方では、都市としての基盤整備が十分でないままに開発が進められた住宅地も多く、住区内はオープンスペースや緑に乏しいというおおいのない住環境となっている。今後は地域の個性を生かしながら、安全性、快適性にあふれたゆとりある住環境を創造していく。</p> <p><b>【景観形成の方向】</b></p> <p>計画的開発による戸建住宅地</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緑化協定などを活用し、敷地の緑化や庭の植栽により住宅地内の緑を保全・育成する。</li> <li>・公園・緑道などのオープンスペースを、個性ある地域のコミュニティ形成の場として活用する。</li> <li>・建築協定などの活用によりまちなみを整える。</li> </ul> <p>中高層住宅地</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆとりある住棟配置や周囲と調和のとれた外観に配慮する。</li> <li>・オープンスペースを活用することにより、うらおいある人々のふれあい空間の創造を図る。</li> </ul> <p>一般住宅地。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生垣、宅地内緑化など、住宅地の個性に応じた緑化を進める。</li> <li>・空地のポケットパーク化など、オープンスペースの確保に努める。</li> </ul> <div style="background-color: #cccccc; width: 100px; height: 15px; margin: 10px 0;"></div> <div style="background-color: #cccccc; width: 100px; height: 15px; margin: 10px 0;"></div> <p>写真：イメージ写真3枚</p> <p>図：区域図</p> <div style="text-align: right; margin-top: 20px;">  </div>
記号	内容						
	住宅地						





















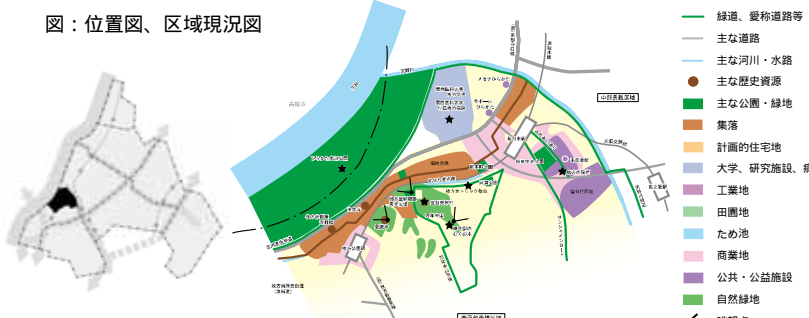
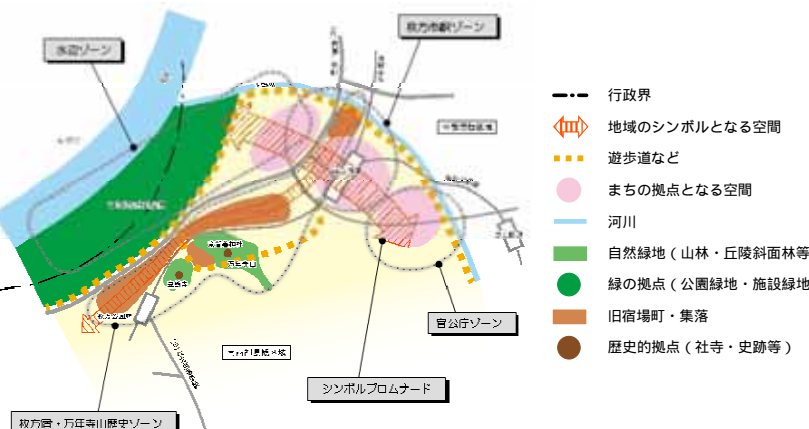

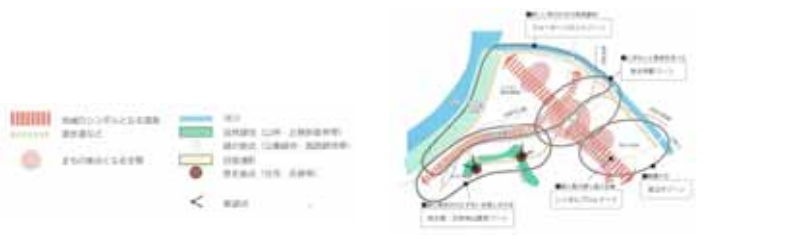
	改訂案	時点修正の内容	現 行								
第3章 3 - 4 P30	<p>商業・業務地景観</p> <p>枚方市では、枚方市駅をはじめ樟葉駅などの京阪およびJRの各駅前、また国道1号などの幹線道路沿いに商業施設の集積が見られます。商業・業務地は日常的な生活拠点であるとともに、都市や地域のイメージを形成する拠点でもあり、楽しさやにぎわいが求められます。しかし、高さや色彩においてまとまりのない建築物や看板の氾濫などにより雑然としているところも見られます。また、歩行者空間においても人と車、自転車が交錯するなど、安全で快適な環境にあるとは言い難いところも多いです。</p> <p>【景観形成の方向】</p> <p>商業・業務空間としての活力に溢れ、にぎわいに満ち溢れた快適な環境の創造と、文化性の感じられる個性あるまちの顔として、まとまりのある景観形成を図ります。</p> <p>中心商業・業務地</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中心商業・業務の集積地にふさわしい、人や文化・情報の交流する活気あふれる空間形成を図ります。</li> <li>建築物や工作物などの良質なデザインを推進します。</li> <li>景観を阻害する広告物などの整理・デザイン化を図ります。</li> </ul> <p>近隣商店街</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の生活拠点として、個性と親しみのある景観形成を図ります。</li> <li>商店街の軸となる道路などは歩行者に配慮した魅力的でゆとりのある空間形成を図ります。</li> <li>放置自転車のないまちをめざし、駐輪場の整備や放置自転車対策を推進します。</li> </ul> <p>郊外型商業施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>建築物や広告物の形態・色彩などについて、良質なデザインを推進します。</li> <li>夜のライティングについて、周辺との調和を図ります。</li> <li>敷地内の緑化を推進することにより、沿道一帯にうおいをもたせます。</li> </ul> <p>写真：イメージ写真3枚</p> <p>図：区域図</p> <table border="1" data-bbox="230 1273 468 1445"> <thead> <tr> <th>記号</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>中心商業・業務地</td> </tr> <tr> <td></td> <td>近隣商店街</td> </tr> <tr> <td></td> <td>郊外型商業施設</td> </tr> </tbody> </table> 	記号	内容		中心商業・業務地		近隣商店街		郊外型商業施設	<p>内容を踏襲</p> <p>懇話会意見を反映する。</p>	<p>(3) 商業・業務地景観</p> <p>【現状と課題】</p> <p>本市では、枚方市駅をはじめ樟葉駅などの京阪及びJRの各駅前、また国道1号などの幹線道路沿いに商業施設の集積が見られる。商業・業務地は日常的な生活拠点であるとともに、都市や地域のイメージを形成する拠点でもあり、楽しさやにぎわいが求められる。しかし、その多くは高さや色彩においてまとまりのない建築物や看板の氾濫などにより雑然としており、また歩行者空間においても人と車、自転車が交錯するなど、快適で安全な環境にあるとは言い難いところも多い。</p> <p>今後は、商業・業務空間としての活力に溢れ、にぎわいに満ち溢れた快適な環境の創造と、文化性の感じられる個性あるまちの顔として、まとまりのある景観形成を図る。</p> <p>【景観形成の方向】</p> <p>中心商業・業務地</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中心商業・業務の集積地にふさわしい、人や文化・情報の交流する活気あふれる都市空間として整備する。</li> <li>建築物や工作物などの良好なデザインの誘導と、景観を阻害する広告物などの整理又はデザイン化を図る。</li> </ul> <p>近隣商店街</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の生活拠点として、個性と親しみのある景観形成を図る。</li> <li>商店街の軸となる道路などを魅力的な動線として整備し、まちの活性化を図る。</li> </ul> <p>郊外型商業施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>建築物や広告看板の形態・色彩などについて、質の高いデザインの誘導を図る。</li> <li>夜のライティングについて、周辺との調和を図る。</li> <li>敷地内の緑化を推進することにより、沿道一帯にうおいをもたせる。</li> </ul> <p>写真：イメージ写真3枚</p> <p>図：区域図</p> 
記号	内容										
	中心商業・業務地										
	近隣商店街										
	郊外型商業施設										

	改訂案	時点修正の内容	現 行
第3章 3 - 4 P31	<p>工業地景観</p> <p>国道1号の建設をきっかけとして、枚方市では枚方企業団地などの工業団地が相次いで建設されました。最近では第二京阪道路の沿道に津田サイエンスヒルズの工場群が立地してきました。大規模工場・工業団地においては、敷地内の緑化が進んでいるところも多いですが、小規模工場群においては緑も少なく、良好な環境とは言い難いです。</p> <p>【景観形成の方向】</p> <p>周辺地域と調和のとれた、快適でうるおいのある地区環境を形成します。</p> <p>大規模工場・工業団地</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工場の周辺や地区内の緑化を図ります。</li> <li>・工場内の建築物および工作物の配置・デザイン等については、周辺地域をはじめ遠景にも配慮します。</li> </ul> <p>小規模工場群</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道路や隣接地に面した部分の緑化などにより、地域景観の向上を図ります。</li> <li>・建築物や工作物のデザインについて周辺地域との調和を図ります。</li> <li>・建築物や広告物などのデザインを工夫して工場のイメージの向上を図ります。</li> </ul> <p>写真：イメージ写真2枚</p> <p>図：区域図</p> 	<p>内容を踏襲</p> <p>懇話会意見を反映する。</p>	<p>(4)工業地景観</p> <p>【現状と課題】</p> <p>枚方バイパス(国道1号)の建設をきっかけとして、本市では中小企業団地や既製服団地などの工業団地が相次いで建設された。その後も国道1号を中心として多くの工場が立地してきた。大規模工場・工業団地においては、敷地内の緑化が進んでいるところも多いが、小規模工場群においては緑も少なく、良好な環境とは言い難い。</p> <p>今後は周辺地域と調和のとれた、快適でうるおいのある地区環境を形成する。</p> <p>【景観形成の方向】</p> <p>大規模工場・工業団地</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工場の周辺や地区内の緑化を図る。</li> <li>・工場内の建築物及び工作物のデザイン等については、周辺地域をはじめ遠くからの視線にも配慮する。</li> </ul> <p>小規模工場群</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道路や隣接地に面した部分の緑化などにより、地域景観の向上を図る。</li> <li>・建築物や工作物のデザインについて周辺地域との調和を図る。</li> </ul> <p>写真：イメージ写真2枚</p> <p>図：区域図</p> 

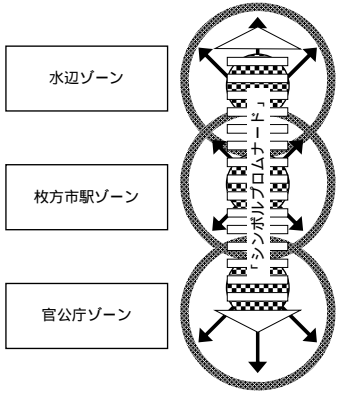

	改訂案	時点修正の内容	現 行																				
第3章 3 - 4 P32	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>景観づくりの目標</p> <p><b>『枚方の新たな魅力をつくる』</b></p> <p>～ 自然と歴史と人を紡ぐひらかたの新しい景観づくり ～</p> <p>市民・事業者・行政が連携した多面的な取り組みによる 優れた景観の保全・育成・創出</p> </div> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p><b>魅力づくりのテーマと基本方針</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; text-align: center; background-color: #e0ffe0;"> <b>「豊かな自然や歴史」</b> をまもる             </td> <td style="width: 33%; text-align: center; background-color: #e0e0ff;"> <b>「快適な地域環境」</b> をはぐくむ             </td> <td style="width: 33%; text-align: center; background-color: #ffe0e0;"> <b>「都市的な魅力」</b> をつくる             </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>枚方を象徴する自然風景や市街地に残る自然資源を守り活かす</li> <li>歴史的景観を守り、まちの記憶・地域の個性として活かす</li> </ul> </td> <td style="vertical-align: top; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>自然が息づき、人々があたたかい「ぬくもり」を感じあえる場を創る</li> <li>個性を活かしたゆとりある美しいまちなみを育む</li> <li>まちの景観を乱すものを取り除く</li> <li>高齢者や障害者にやさしい地域環境を育む</li> </ul> </td> <td style="vertical-align: top; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>にぎわいと風格のある都市核を創る</li> <li>生活を楽しむ文化に触れる地域の拠点をつくり育てる</li> <li>四季のいるあいや一日の時のうつろいに変化する表情を楽しむ都市を演出する</li> </ul> </td> </tr> </table> <p><b>類型別景観形成の方向</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <b>都市の骨格景観</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ターミナル拠点景観</li> <li>・沿道景観</li> </ul> </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <b>地区タイプ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・河川景観</li> <li>・眺望景観</li> <li>・緑地景観</li> <li>・商業・業務地景観</li> <li>・歴史景観</li> <li>・工業地景観</li> <li>・住宅地景観</li> </ul> </td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p><b>地域への展開</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="3" style="padding: 5px;"><b>景観地域・景観区域区分</b></td> </tr> <tr> <td style="width: 33%; padding: 5px;"> <b>都市核景観地域</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・枚方市駅周辺景観区域</li> <li>・樟葉駅周辺景観区域</li> </ul> </td> <td style="width: 33%; padding: 5px;"> <b>市街地景観地域</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北部景観区域</li> <li>・中部景観区域</li> <li>・南西部景観区域</li> </ul> </td> <td style="width: 33%; padding: 5px;"> <b>山麓景観地域</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・南部景観区域</li> <li>・中南部景観区域</li> <li>・中東部景観区域</li> <li>・東部景観区域</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="padding: 5px;"><b>景観軸</b></td> </tr> <tr> <td style="width: 33%; padding: 5px;"> <b>道路景観軸</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国道1号・170号</li> <li>・第二京阪道路</li> </ul> </td> <td style="width: 33%; padding: 5px;"> <b>河川景観軸</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・淀川</li> <li>・穂谷川</li> <li>・天野川</li> </ul> </td> <td></td> </tr> </table> </div> </div>	<b>「豊かな自然や歴史」</b> をまもる	<b>「快適な地域環境」</b> をはぐくむ	<b>「都市的な魅力」</b> をつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>枚方を象徴する自然風景や市街地に残る自然資源を守り活かす</li> <li>歴史的景観を守り、まちの記憶・地域の個性として活かす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然が息づき、人々があたたかい「ぬくもり」を感じあえる場を創る</li> <li>個性を活かしたゆとりある美しいまちなみを育む</li> <li>まちの景観を乱すものを取り除く</li> <li>高齢者や障害者にやさしい地域環境を育む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>にぎわいと風格のある都市核を創る</li> <li>生活を楽しむ文化に触れる地域の拠点をつくり育てる</li> <li>四季のいるあいや一日の時のうつろいに変化する表情を楽しむ都市を演出する</li> </ul>	<b>都市の骨格景観</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ターミナル拠点景観</li> <li>・沿道景観</li> </ul>	<b>地区タイプ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・河川景観</li> <li>・眺望景観</li> <li>・緑地景観</li> <li>・商業・業務地景観</li> <li>・歴史景観</li> <li>・工業地景観</li> <li>・住宅地景観</li> </ul>	<b>景観地域・景観区域区分</b>			<b>都市核景観地域</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・枚方市駅周辺景観区域</li> <li>・樟葉駅周辺景観区域</li> </ul>	<b>市街地景観地域</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北部景観区域</li> <li>・中部景観区域</li> <li>・南西部景観区域</li> </ul>	<b>山麓景観地域</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・南部景観区域</li> <li>・中南部景観区域</li> <li>・中東部景観区域</li> <li>・東部景観区域</li> </ul>	<b>景観軸</b>			<b>道路景観軸</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国道1号・170号</li> <li>・第二京阪道路</li> </ul>	<b>河川景観軸</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・淀川</li> <li>・穂谷川</li> <li>・天野川</li> </ul>		内容を踏襲  記載内容の時点修正	2 - 2 魅力づくりのテーマと基本方針
<b>「豊かな自然や歴史」</b> をまもる	<b>「快適な地域環境」</b> をはぐくむ	<b>「都市的な魅力」</b> をつくる																					
<ul style="list-style-type: none"> <li>枚方を象徴する自然風景や市街地に残る自然資源を守り活かす</li> <li>歴史的景観を守り、まちの記憶・地域の個性として活かす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然が息づき、人々があたたかい「ぬくもり」を感じあえる場を創る</li> <li>個性を活かしたゆとりある美しいまちなみを育む</li> <li>まちの景観を乱すものを取り除く</li> <li>高齢者や障害者にやさしい地域環境を育む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>にぎわいと風格のある都市核を創る</li> <li>生活を楽しむ文化に触れる地域の拠点をつくり育てる</li> <li>四季のいるあいや一日の時のうつろいに変化する表情を楽しむ都市を演出する</li> </ul>																					
<b>都市の骨格景観</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ターミナル拠点景観</li> <li>・沿道景観</li> </ul>	<b>地区タイプ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・河川景観</li> <li>・眺望景観</li> <li>・緑地景観</li> <li>・商業・業務地景観</li> <li>・歴史景観</li> <li>・工業地景観</li> <li>・住宅地景観</li> </ul>																						
<b>景観地域・景観区域区分</b>																							
<b>都市核景観地域</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・枚方市駅周辺景観区域</li> <li>・樟葉駅周辺景観区域</li> </ul>	<b>市街地景観地域</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北部景観区域</li> <li>・中部景観区域</li> <li>・南西部景観区域</li> </ul>	<b>山麓景観地域</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・南部景観区域</li> <li>・中南部景観区域</li> <li>・中東部景観区域</li> <li>・東部景観区域</li> </ul>																					
<b>景観軸</b>																							
<b>道路景観軸</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国道1号・170号</li> <li>・第二京阪道路</li> </ul>	<b>河川景観軸</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・淀川</li> <li>・穂谷川</li> <li>・天野川</li> </ul>																						

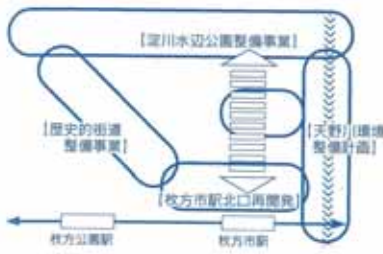
	改訂案	時点修正の内容	現 行																							
第4章 4 - 1 P33	<p>第4章 地域への展開</p> <p>4 - 1 地域区分</p> <p>景観形成を実際に展開していくためには、身近な生活空間の広がりの中で景観をとらえていく必要があります。そこで以下のような視点に基づいて市域を異なる特性を持つ3つの景観地域、9つの景観区域に区分しました。また、都市の景観の骨格を形成する5つの景観軸を設定しました。これらの地域区分・区域区分と景観軸のそれぞれについての特性を踏まえた景観形成の方針を以下にまとめました。</p> <p>また、区域を特徴づける箇所については、おおよその位置をゾーンとして示し、それぞれに景観形成の方向を示すことにより特色ある景観形成に役立てます。</p> <p>(1) 景観地域・景観区域の区分</p> <p>景観的な特徴を共有する地域（景観地域）</p> <p>地形的な特徴や土地利用の特徴を共有する3つの地域に区分しました。</p> <p>まちづくりの方針を共有する区域（景観区域）</p> <p>穂谷川、天野川、国道1号、第二京阪道路によって物理的に区分され、都市計画マスタープランで地域別構想が立案されている7区域と、都市核を形成する枚方市駅周辺、樟葉駅周辺の2区域の合計9区域に区分しました。</p> <table border="1" data-bbox="436 758 824 1085"> <thead> <tr> <th>景観地域</th> <th>景観区域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">都市核景観地域</td> <td>枚方市駅周辺景観区域</td> </tr> <tr> <td>樟葉駅周辺景観区域</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">市街地景観地域</td> <td>北部景観区域</td> </tr> <tr> <td>中部景観区域</td> </tr> <tr> <td>南西部景観区域</td> </tr> <tr> <td>南部景観区域</td> </tr> <tr> <td>中南部景観区域</td> </tr> <tr> <td>中東部景観区域</td> </tr> <tr> <td>山麓景観地域</td> <td>東部景観区域</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 景観軸</p> <p>景観の骨格となる軸線（景観軸）</p> <p>面的に広がる景観地域・景観区域の境界を成し、景観の軸となる道路周辺、河川周辺の5つの景観軸を設定しました。</p> <table border="1" data-bbox="436 1308 824 1508"> <thead> <tr> <th colspan="2">景観軸</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">道路景観軸</td> <td>国道1号・170号</td> </tr> <tr> <td>第二京阪道路</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">河川景観軸</td> <td>淀川</td> </tr> <tr> <td>穂谷川</td> </tr> <tr> <td>天野川</td> </tr> </tbody> </table>	景観地域	景観区域	都市核景観地域	枚方市駅周辺景観区域	樟葉駅周辺景観区域	市街地景観地域	北部景観区域	中部景観区域	南西部景観区域	南部景観区域	中南部景観区域	中東部景観区域	山麓景観地域	東部景観区域	景観軸		道路景観軸	国道1号・170号	第二京阪道路	河川景観軸	淀川	穂谷川	天野川	<p>地域区分、景観軸の変更に合わせて内容を組み替える。</p> <p>基本的には現行計画の内容を踏襲</p>	<p>第3章 地域への展開</p> <p>3 - 1 地域別基本計画</p> <p>景観形成を実際に展開していくためには、身近な生活空間の広がりの中で景観を捉えていく必要があります。そこで以下のような視点に基づいて市域を異なる特性を持つ10地域に区分し、これら地域それぞれについての特性を踏まえた将来の景観形成のイメージとその方針を地域別基本計画として以下にまとめました。</p> <p>景観形成を展開する10の地域</p> <p>枚方を代表する景観を示す都市の核や骨格として景観形成を進める地域</p> <p>1章で取り上げた景観フレームをもとに、右の7地域に区分する。(ただし生駒山系は東部地域の中に、また藤阪駅周辺については、東部地域と穂谷川沿川地域の両方の地域の中に含まれているものとして捉えた。)</p> <p>快適な地域環境を育むため景観形成を進める地域</p> <p>本市の市街地の大部分を占める地域であるが、市街地を形成している環境や都市形成などの違いから右の3地域に区分する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>枚方市駅周辺地域 都市文化と自然・歴史環境の融和した未来へつながるウォーターフロントシティ</li> <li>樟葉駅周辺地域 淀川と緑のシルエットにふちどられたおしゃれなヒューマンスケールのまち</li> <li>東部地域 豊かな自然に育まれた知的興奮のある新しいまち</li> <li>淀川沿川地域 北摂と生駒の山なみを育む水と緑と大きな空のオアシスゾーン</li> <li>穂谷川沿川地域 文化・レクリエーションと緑の拠点を連ねるピオトープライン</li> <li>天野川沿川地域 七夕伝説をモチーフとした歴史ロマンへいざなう出会いとふれあいの川</li> <li>国道1号沿道地域 産業の動脈から緑と楽しさあふれる魅力的な道へ</li> <li>北部地域 ファクトリーパークと新旧の融和した若さのあるまち</li> <li>中部地域 花と緑と歴史にふちどられた住工の調和したまち</li> <li>南部地域 柔らかな緑の光に包まれた絵になる住まいの風景</li> </ol> <p>図：景観形成地域図</p> 
景観地域	景観区域																									
都市核景観地域	枚方市駅周辺景観区域																									
	樟葉駅周辺景観区域																									
市街地景観地域	北部景観区域																									
	中部景観区域																									
	南西部景観区域																									
	南部景観区域																									
	中南部景観区域																									
中東部景観区域																										
山麓景観地域	東部景観区域																									
景観軸																										
道路景観軸	国道1号・170号																									
	第二京阪道路																									
河川景観軸	淀川																									
	穂谷川																									
	天野川																									

	改訂案	時点修正の内容	現 行																								
第4章 4 - 1 P34	<p>図：枚方市の景観地域・景観区域・景観軸</p> <table border="1" data-bbox="349 1106 958 1433"> <thead> <tr> <th colspan="2">景観地域</th> <th colspan="2">景観区域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>都市核景観地域</td> <td></td> <td>景観区域界</td> </tr> <tr> <td></td> <td>市街地景観地域</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>山麓景観地域</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th colspan="4">景 観 軸</th> </tr> <tr> <td></td> <td>道路軸</td> <td></td> <td>河川軸</td> </tr> </tbody> </table>	景観地域		景観区域			都市核景観地域		景観区域界		市街地景観地域				山麓景観地域			景 観 軸					道路軸		河川軸	<p>地域区分、景観軸の変更に合わせて内容を組み替える。</p>	
景観地域		景観区域																									
	都市核景観地域		景観区域界																								
	市街地景観地域																										
	山麓景観地域																										
景 観 軸																											
	道路軸		河川軸																								

	改訂案	時点修正の内容	現 行						
第4章 4-2 P36～P37	<p>4-2 区域別・景観軸別基本計画            (1) 枚方市駅周辺景観区域</p> <p>課題と方向性            枚方市駅周辺は、枚方市の商業・業務の中心であり、電車・バスのターミナル機能の集積する枚方の顔と言える地域です。西は淀川、北は天野川、南は万年寺山に囲まれ、自然的にも歴史的にも多くの景観資源に恵まれています。</p> <p>近年、枚方市駅周辺からひらかた水辺公園にかけては、駅北口の再開発が進められ、ラポールひらかた、メセナひらかたの建設、大学や病院などの立地、ひらかた水辺公園の整備、京街道に沿った旧枚方宿周辺の整備など、恵まれた立地条件を背景とした様々な事業が相次いで実施されており、この地域はこれからさらに大きく生まれ変わろうとしています。</p> <p>今後は、うるおいと風格のある都市機能の中核として、また生活に豊かさをもたらす都市文化の発信地としてふさわしい魅力的な市街地の形成を図っていきます。</p> <p>図：位置図、区域現況図</p>  <p>景観形成の方針</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 枚方市の顔としての都市的魅力と文化あふれる風格あるまちなみの形成</li> <li>2. 水辺空間を活かした新しい都心景観の創造</li> <li>3. 京街道、意賀美神社、万年寺山など歴史や自然と調和した都市景観の育成</li> </ol> <p>図：景観形成概念図</p> 	<p>内容を踏襲</p> <p>時点修正を加える。</p>	<p>(1) 枚方市駅周辺地域  <b>《主な景観資源》</b></p> <table border="1" data-bbox="1299 175 1747 287"> <tr> <td>淀川・天野川</td> <td>枚方市駅と周辺商業地</td> </tr> <tr> <td>旧枚方宿</td> <td>万年寺山</td> </tr> <tr> <td>意賀美神社</td> <td>官公庁団地など</td> </tr> </table> <p>地域景観特性</p> <p>枚方市駅周辺は、本市の商業・業務の中心であり、電車・バスのターミナル機能の集積する枚方の顔と言える地域である。西は淀川、北は天野川、南は万年寺に囲まれ、自然的にも歴史的にも多くの景観資源に恵まれている。近年、枚方市駅周辺から淀川にかけてのウォーターフロントでは、駅北口の再開発をはじめとして、総合文化会館・総合福祉会館の建設(仮称)、ひらかた水辺公園(仮称)・天野川の整備、京街道に沿った歴史的街道整備など、恵まれた立地条件を背景とした様々な事業が相次いで計画されており、この地域はこれから大きく生まれ変わろうとしている。</p> <p>今後は、うるおいと風格のある都市機能の中核として、また生活に豊かさをもたらす都市文化の発信地としてふさわしい魅力的な市街地の形成を図っていく。</p> <p>図：区域図、区域詳細図</p>  <p>景観形成のイメージ  <b>都市文化と自然・歴史環境の融和した未来へつなげるウォーターフロントシティ</b></p> <p>景観形成の方針</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 枚方市の顔としての都市的魅力と文化あふれる風格あるまちなみの形成</li> <li>2. ウォーターフロントを生かした新しい都心景観の創造</li> <li>3. 京街道、意賀美神社、万年寺など歴史や自然と調和した都市景観の育成</li> </ol> <p>図：景観形成概念図</p> 	淀川・天野川	枚方市駅と周辺商業地	旧枚方宿	万年寺山	意賀美神社	官公庁団地など
淀川・天野川	枚方市駅と周辺商業地								
旧枚方宿	万年寺山								
意賀美神社	官公庁団地など								

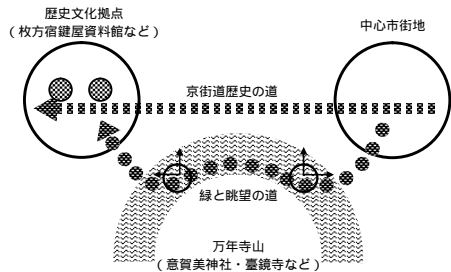
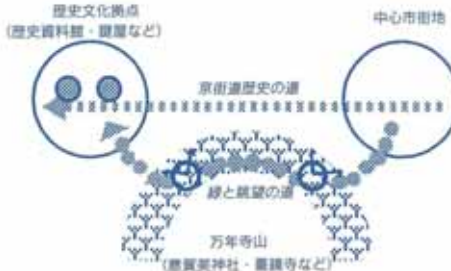



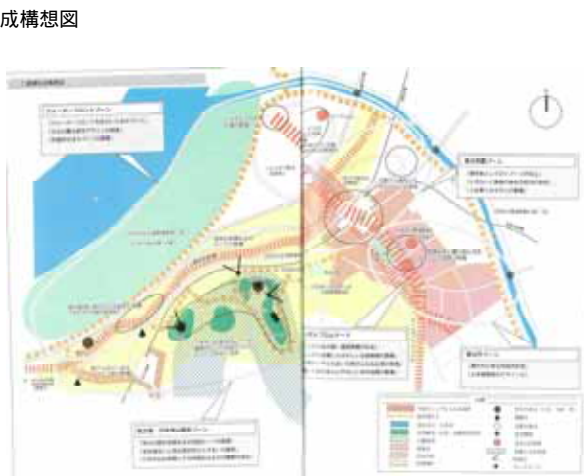
	改訂案	時点修正の内容	現 行
第4章 4 - 2 P38	<p>景観形成の方向  <b>シンボルプロムナード</b></p> <p>中心市街地を南北に貫く緑の軸を整備することにより、3つの異なるゾーンを結びつけ、淀川の水辺へと人を導くまちの『背骨』をつくり出します。</p> <p>「シンボル性の高い道路景観の形成」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 街路樹や花を用いた緑化を推進し、道に連続性と華やかさを演出します。</li> <li>・ 淀川方向へぬけるビスタの確保とアイストップの整備を図ります。</li> </ul> <p>「シンボル空間にふさわしい沿道環境の誘導」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 沿道建築物のセットバックを促し、後退部分と歩道を一体的に整備します。</li> <li>・ 良好なデザインの沿道建築物や屋外広告物の誘導を図ります。</li> <li>・ シンボルプロムナードを軸とした商業や公共サービス機能の高度な集積を図ります。</li> </ul> <p>「にぎわいやふれあいの拠点となる広場の活用」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 岡東中央公園をにぎわい・ふれあい拠点として活用します。</li> </ul> <p>「楽しく歩ける人にやさしい歩行空間の整備」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人の目を楽しませる彫刻やモニュメント、ストリートファニチャーなどを設置します。</li> <li>・ 十分な歩行者空間を確保し、高齢者や障害者にやさしい道づくりを行います。</li> <li>・ 街角に枚方を紹介する案内板やサインの整備を行います。</li> </ul> <p>【関連構想およびプロジェクト】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>枚方市駅周辺整備基本構想</li> <li>枚方市駅周辺再整備ビジョン</li> <li>総合文化施設整備事業</li> </ul> <p>図：広場を核とした3つのゾーンとそれらをつなぐシンボル軸</p>  <p>水辺ゾーン            枚方市駅ゾーン            官公庁ゾーン</p> <p>広場を核とした3つのゾーンとそれらをつなぐシンボル軸</p>	<p>内容を踏襲</p> <p>時点修正を加える。</p>	<p>景観形成の方向  <b>シンボルプロムナード</b></p> <p>中心市街地を南北に貫く緑の軸を整備することにより、3つの異なるゾーンを結びつけ、淀川の水辺へと人を導くまちの『背骨』を創り出す。</p> <p>「シンボル性の高い道路景観の形成」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 街路樹や花を用いた緑化を推進し、道に連続性と華やかさを演出する。</li> <li>・ 淀川方向へぬけるビスタの確保とアイストップの整備を図る。</li> </ul> <p>「シンボル空間にふさわしい沿道環境の誘導」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 沿道建築物のセットバックを促し、後退部分と歩道を一体的に整備する。</li> <li>・ 良好なデザインの沿道建築物や屋外広告物の誘導を図る。</li> <li>・ シンボルプロムナードを軸とした商業や公共サービス機能の高度な集積を図る。</li> </ul> <p>「にぎわいやふれあいの拠点となる広場の整備」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各ゾーンごとに核となる広場を整備するとともに、主要な交差点に辻広場を設ける。</li> </ul> <p>「楽しく歩ける人にやさしい歩行空間の整備」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人の目を楽しませる彫刻やモニュメント、ストリートファニチャーなどを設置する。</li> <li>・ 十分な歩行者空間を確保し、高齢者や障害者にやさしい道づくりを行う。</li> <li>・ 街角の枚方を紹介する案内板やサインの整備を行う。</li> </ul> <p>図：広場を核とした3つのゾーンとそれらをつなぐシンボル軸</p>  <p>ウォーターフロントゾーン            枚方市駅ゾーン            官公庁ゾーン</p> <p>（広場を核とした3つのゾーンとそれらをつなぐシンボル軸）</p>


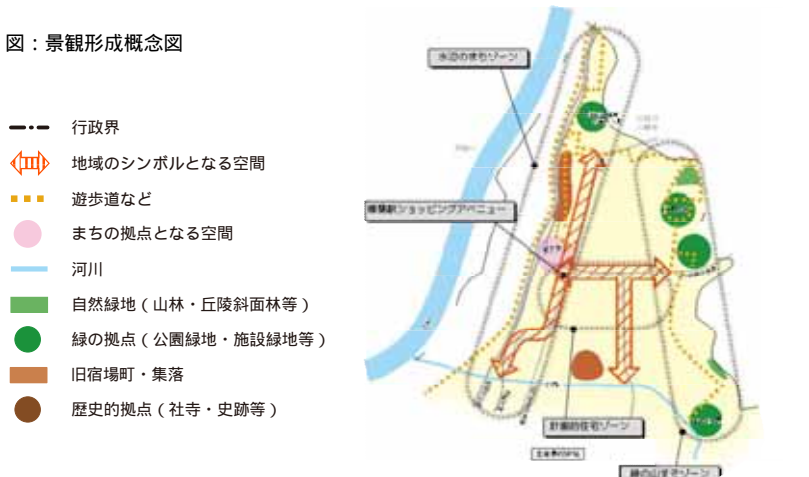


	改訂案	時点修正の内容	現 行
第4章 4 - 2 P39	<p><b>水辺ゾーン</b></p> <p>自然に恵まれた立地性を活かしながら、淀川から府道京都守口線にかけての<b>一帯</b>を文化性にあふれた機能的な新市街地として再整備します。</p> <p>「水辺空間を活かしたまちづくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各プロジェクトの実施に当たり、ゾーン全体のイメージに配慮しながら、それぞれの個性と魅力を持った整備を図ります。</li> <li>淀川へ向うシンボルプロムナードおよび川辺に沿って広場やオープンスペースを確保します。</li> <li>川に面した建築物のデザインを水辺景観と調和するよう配慮します。</li> </ul> <p>「文化の薫る都市デザインの推進」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>総合文化施設の建設に際して、質の高いデザインを採用し、地域一帯の良好なまちなみの形成の推進を図ります。</li> <li>自然・文化の共存する、個性的な魅力を放つ都市デザインを推進します。</li> </ul> <p>「計画的なまちづくりの誘導」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地区計画などの制度を活用した計画的な市街地開発の誘導を図ります。</li> </ul> <p>【関連構想およびプロジェクト】</p> <p>淀川河川公園基本計画 / 枚方市駅周辺整備基本構想 / 枚方市駅周辺再整備ビジョン / 総合文化施設整備事業 / 街なみ環境整備事業</p>		<p><b>ウォーターフロントゾーン</b></p> <p>自然や歴史に恵まれた立地性を活かしながら、淀川から枚方駅周辺や旧枚方宿にかけての<b>一帯</b>を<b>歴史性・文化性</b>にあふれた機能的な新市街地として再整備する。</p> <p>「ウォーターフロントを活かしたまちづくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各プロジェクトの実施に当たり、ゾーン全体のイメージに配慮しながら、それぞれの個性と魅力を持った整備を図る。</li> <li>淀川へ向うシンボルプロムナードおよび川辺に沿って広場やオープンスペースを確保し、まちと川との一体性を高める。</li> <li>川に面した建物のデザインを水辺景観と調和するよう配慮する。</li> </ul> <p>「文化の薫る都市デザインの推進」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>総合文化会館・総合福祉会館(仮称)の建設に際して、質の高い都市デザインの推進を図り、地域一帯の良好なまちなみの形成を先導する。</li> <li>自然・歴史・文化の共存する、個性的な魅力を放つ都市デザインを推進する。</li> </ul> <p>「計画的なまちづくりの誘導」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地区計画や建築協定などの制度を活用した計画的な市街地開発の誘導を図る。</li> </ul> <p>【関連プロジェクト】</p> <p>淀川水辺公園整備事業 / 天野川環境整備計画 / (仮称)総合文化会館 / 総合福祉会館建設 / 枚方市駅北口再開発 / 歴史的街道整備事業 / (仮称)枚方宿資料会館建設</p> <p>図：ウォーターフロントゾーンの構成</p>  <p>(ウォーターフロントゾーンの構成)</p>



	改訂案	時点修正の内容	現 行
第4章 4-2 P40	<p><b>枚方市駅ゾーン</b></p> <p>北河内の玄関口としての利便性と、枚方の「顔」としてふさわしいにぎわいや文化性を兼ね備えた都市空間を創造するとともに、淀川や万年寺山の自然や旧枚方宿の歴史的なまちなみなど、枚方を象徴する風景へと人々を誘う起点としての景観整備を図ります。</p> <p>「都市核としてのイメージの向上」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文化・情報があふれ活力ある都市空間を創造します。</li> <li>枚方市の核としての商業、業務機能の高度な集積を図ります。</li> <li>文化交流活動の拠点となる施設の充実を図ります。</li> <li>サンシャインロードにおいて、枚方市駅へのアクセスにふさわしい印象的な街路景観の形成を図ります。</li> </ul> <p>「にぎわいと風格のある市街地の形成」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>良好な建築デザインを誘導するとともに、景観を阻害する屋外広告物等の整理またはデザイン化を推進します。</li> <li>にぎわいのある夜間景観の演出に努めます。</li> <li>駅前広場において、淀川や万年寺山・生駒山系など枚方を代表する風景をイメージした修景を図ります。</li> </ul> <p>「人を導く歩行者動線の整備」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>京街道の持つ歴史イメージを活用した歩行者動線の整備を図ります。</li> <li>中心市街地から川辺へ人を導く歩行者動線の整備を図ります。</li> </ul> <p>【関連構想およびプロジェクト】</p> <p>枚方市駅周辺整備基本構想 枚方市駅周辺再整備ビジョン</p>		<p>枚方市駅ゾーン</p> <p>北河内の玄関口としての利便性と、枚方の「顔」としてふさわしいにぎわいや文化性を兼ね備えた都市空間を創造するとともに、淀川や万年寺山の自然や旧枚方宿の歴史的町並みなど、枚方を象徴する風景へと人々を誘う起点としての景観整備を図る。</p> <p>「都市核としてのイメージの向上」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文化・情報があふれ活力ある都市空間を創造する。</li> <li>枚方市の核としての商業、業務機能の高度な集積を図る。</li> <li>文化交流活動の拠点となる施設の充実を図る。</li> <li>サンシャインロードにおいて、枚方市駅へのアクセスにふさわしい印象的な街路景観の形成を図る。</li> </ul> <p>「にぎわいと風格のある市街地の形成」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>良好な建築デザインを誘導するとともに、景観を阻害する屋外広告物等の整理またはデザイン化を推進する。</li> <li>にぎわいのある夜間景観を演出する。</li> <li>駅前広場において、淀川や万年寺山・生駒山系など枚方を代表する風景をイメージした修景を図る。</li> </ul> <p>「人を導くみちすじの整備」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>京街道の持つ歴史イメージを活用したみちすじの整備を図る。</li> <li>中心市街地から川辺へ人を導くみちすじの整備を図る。</li> </ul> <p>【関連プロジェクト】</p> <p>枚方市駅北口再開発 京阪南2号せせらぎ水路整備事業</p> <p>■■■■■</p> <p>■■■■■</p> <p>図：枚方市駅ゾーンの構成</p>  <p>《枚方市駅ゾーンの構成》</p>

	改訂案	時点修正の内容	現 行
第4章 4 - 2 P41	<p><b>枚方宿・万年寺山歴史ゾーン</b>            枚方の歴史を代表する旧枚方宿のまちなみと、背景となる万年寺山の緑を受け継いでいくとともに、散策を楽しめる空間としての整備を図ります。</p> <p>「枚方の歴史空間を巡る回遊ルートの整備」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中心市街地から鍵屋浦、淀川へ至る2つのルート(京街道歴史の道・緑と眺望の道)の整備を図ります。</li> <li>・ 意賀美神社・臺鏡寺・御茶屋御殿跡展望広場など良好な眺望の保全活用を図ります。</li> </ul> <p>「京街道沿いに残る歴史的たたずまいの継承」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 伝統的町家の外観の保全や歴史イメージを高める建築デザインの誘導を行います。</li> <li>・ 街道筋に残る樹木や道標などを活かした道路整備を図ります。</li> </ul> <p>「万年寺山を背景とする特色あるまちの風景の保全」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ まちの背景となる万年寺山崖線の斜面を守ります。</li> <li>・ 良好なランドマークとなっているむくの木や臺鏡寺などを保全するとともに地域のシンボルとして活用します。</li> <li>・ 斜面に展開する住宅地内の緑化を推進するとともに、緑の稜線を守るような建築物の形態・デザインの誘導を図ります。</li> </ul> <p>【関連構想およびプロジェクト】            街なみ環境整備事業</p> <p>図：枚方ゾーンを巡る2つの道</p>  <p>歴史ゾーンを巡る2つの道</p>		<p>枚方宿・万年寺歴史ゾーン            枚方の歴史を代表する旧枚方宿の町並みと、背景となる万年寺山の緑を受け継いでいくとともに、散策を楽しめる空間としての整備を図る。</p> <p>「枚方の歴史空間を巡る回遊ルートの整備」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中心市街地から鍵屋浦、淀川へ至る2つのルート(京街道歴史の道・緑と眺望の道)の整備を図る。</li> <li>・ 歴史資料館など歴史散策の拠点となる施設の整備を図る。</li> <li>・ 意賀美神社・臺鏡寺 など良好な眺望場を保全するとともに、眺望広場としての活用を図る。</li> </ul> <p>「京街道沿いに残る歴史的たたずまいの継承」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 伝統的町家の外観の保全や歴史イメージを高める建築デザインの誘導を行う。</li> <li>・ 街道筋に残る樹木や道標などを生かした道路整備を図る。</li> </ul> <p>「万年寺山を背景とする特色あるまちの風景の保全」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ まちの背景となる万年寺山崖線の斜面を守る。</li> <li>・ 良好なランドマークとなっているムクノキや臺鏡寺などを保全するとともに地域のシンボルとして活用する。</li> <li>・ 斜面に展開する住宅地内の緑化を推進するとともに、緑の稜線を守るような建築物の形態・デザインの誘導を図る。</li> </ul> <p>【関連プロジェクト】            歴史的街道整備事業            (仮称)枚方宿資料館建設</p> <p>写真：旧枚方宿、枚方カトリック教会とムクノキ</p> <p>図：枚方ゾーンを巡る2つの道</p>  <p>歴史ゾーンを巡る2つの道</p>

	改訂案	時点修正の内容	現 行
第4章 4 - 2 P42～P43	<p><b>官公庁ゾーン</b></p> <p>岡東中央公園一帯を核とする緑豊かな環境の中で、北河内の行政中枢としてふさわしいゾーン形成を行います。</p> <p>「開かれた官公庁街の形成」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>岡東中央公園・ふれあい通りを中心に、公共施設や街路の緑化とオープンスペースの確保を進めることにより、うるおいのある交流空間の形成を図ります。</li> <li>美しく統一されたサインシステムにより、わかりやすいまちづくりをめざします</li> </ul> <p>「公共建築物のデザイン化」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公共建築物のデザインや配置に配慮し、親しみやすくシンボル性の高い景観形成を図ります。</li> </ul> <p>【関連構想およびプロジェクト】</p> <p>枚方市駅周辺整備基本構想            枚方市駅周辺再整備ビジョン</p> <p>図：景観形成構想図</p> 		<p>官公庁ゾーン</p> <p>岡東中央公園一帯を核とする緑豊かな環境の中で、北河内の行政中枢としてふさわしいゾーン形成を行う。</p> <p>「開かれた官公庁街の形成」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>岡東中央公園・ふれあい通りを中心に、公共施設や街路の緑化とオープンスペースの確保を進めることにより、うるおいのある交流空間の形成を図る。</li> <li>美しく統一されたサインシステムにより、わかりやすいまちづくりを行う。</li> </ul> <p>「公共建築物のデザイン化」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公共建築物のデザインや配置に配慮し、親しみやすくシンボル性の高い景観形成を図る。</li> </ul> <p>【関連プロジェクト】</p> <p>庁舎周辺整備事業</p> <p>写真：ふれあい通り</p> <p>図：景観形成構想図</p> 

	改訂案	時点修正の内容	現 行
<p>第4章 4-2 P44～P45</p>	<p>(2) 樟葉駅周辺景観区域 課題と方向性 樟葉駅は枚方の北の玄関口であり、駅前には北河内有数の商業施設であるくずはモールや大規模な高層マンションなどが立ち並び、周辺の計画的に開発された住宅地では、街路整備や緑化の進んだ良好な住環境を形成しています。</p> <p>しかし、こうした計画的整備が進む一方で、かつての楠葉のまちを取り囲んでいた丘陵の緑はほとんど姿を消し、また生活の一部であった淀川は現在日常生活から極めて疎遠な空間となっています。</p> <p>今後は、市の北の拠点にふさわしいより魅力的な商業空間を形成し、快適な生活空間としての住宅地景観を維持します。また丘陵の緑や、淀川の自然とも身近に接することのできる環境を整えます。</p> <p>図：位置図、区域現況</p>  <p>景観形成の方針</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 楽しみのある洗練された北の拠点の形成</li> <li>2. 「くずは」のもつ良好な住宅地のイメージの維持・向上</li> <li>3. まちを縁どる緑の育成とネットワークの形成</li> <li>4. 淀川とのつながりを持ったまちづくり</li> </ol> <p>図：景観形成概念図</p> 		<p>(2) 樟葉駅周辺地域 《主な景観資源》 樟葉駅と周辺商業地 淀川・天野川 市民の森など</p> <p>樟葉の良好な住宅地 交野天神社</p> <p>地域景観特性 樟葉駅は枚方の北の玄関口で、駅前には緑豊かなショッピングモールが整備されている。また、計画的に開発された住宅地は、街路整備や緑化の進んだ良好な住環境を形成している。</p> <p>しかし、こうした計画的整備が進む一方で、かつての楠葉のまちを取り囲んでいた丘陵の緑はほとんど姿を消し、また生活の一部であった淀川は現在日常生活から極めて疎遠な空間となっている。</p> <p>今後は、市の北のターミナルにふさわしいより魅力的な商業空間を形成し、快適な生活空間としての住宅地景観を維持する。また丘陵の緑や、淀川の自然とも身近に接することのできる環境を整える。</p> <p>図：区域図、区域詳細図</p>  <p>景観形成の目標 【淀川と緑のシルエットにふちどられたおしゃれなヒューマンスケールのまち】</p> <p>景観形成の方針</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 楽しみのある洗練された北のターミナルの形成</li> <li>2. 「くずは」のもつ良好な住環境のイメージの維持・向上</li> <li>3. まちを縁どる緑の育成とネットワークの形成</li> <li>4. 淀川とのつながりを持ったまちづくり</li> </ol> <p>図：景観形成概念図</p> 

	改訂案	時点修正の内容	現 行
第4章 4 - 2 P46	<p>景観形成の方向</p> <p><b>樟葉駅ショッピングアベニュー</b>            樟葉駅前の大規模商業複合施設を核として、軸状に商業施設を展開することにより、魅力的な空間の創造を図ります。</p> <p>「北の玄関口にふさわしい駅前空間の育成」            ・洗練され活気ある駅前空間の整備を推進します。            ・美しい夜間景観を演出します。</p> <p>「買物をしながら楽しく歩ける空間軸の創造」            ・人々が憩い楽しく歩ける、魅力的で景観に配慮した新たな商業ゾーンを形成します。            ・街路沿いの建築物や広告の形態・色彩等について、洗練されたまちなみの誘導を図ります。            ・要所には、人々が集いにぎわう空間となる辻広場やポケットパークを設けます。</p> <p><b>計画的住宅ゾーン</b>            基盤整備の充実した住環境を保全・育成し、ゆとりとうるおいのあるまちなみを育みます。</p> <p>「『くずは』の持つ良好な住宅地のイメージの維持・向上」            ・住宅地内の主要道路の緑化を推進するとともに、公共施設等で「花いっぱい運動」を展開し、地域のイメージの向上を図ります。            ・景観協定・緑地協定・建築協定を活用することにより、ゆとりある住宅地景観の維持・向上を図ります。</p>		<p>景観形成の方向</p> <p>樟葉駅・ショッピングアベニュー            樟葉駅前のショッピングモールを核として、軸状に展開する商業地のモール化を推進することにより、ヒューマンスケールなにぎわい空間の創造を図る。</p> <p>「北の玄関口にふさわしい駅前空間の育成」            ・豊かな緑と噴水を生かした、うるおいと活気ある駅前空間の整備を推進する。            ・美しい夜間景観を演出する。</p> <p>「買物をしながら楽しく歩けるモール軸の創造」            ・人々が憩い楽しく歩ける魅力的なショッピングアベニューを形成する。            ・街路沿いの建築物や広告の形態・色彩等について、洗練されたまちなみの誘導を図る。            ・要所には、人々が集いにぎわう空間となる辻広場やポケットパークを設ける。</p> <p>計画的住宅ゾーン            基盤整備の充実した住環境を保全・育成し、ゆとりとうるおいのあるまちなみを育む。</p> <p>「『くずは』の持つ良好な住宅地のイメージの維持・向上」            ・住宅内において「花いっぱい運動」を展開するとともに、主要道路の緑化を推進し、地域のイメージの向上を図る。            ・緑化協定・建築協定を活用することにより、ゆとりある住宅地景観の維持・向上を図る。</p> <p>写真：樟葉駅前、くずはローズタウン</p>

	改訂案	時点修正の内容	現 行
第4章 4 - 2 P47	<p><b>緑の山すそゾーン</b>            男山の山すそに沿った市域に残る斜面林や社寺林、また山際のため池を取り入れて整備された公園の緑などを散策路によって結び、緑豊かな地域のイメージをめざします。</p> <p>「さまざまな緑とふれあえる拠点の育成」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交野天神社の杜や市民の森などのまとまった緑を保全し、自然とふれあえる場をつくり出す。</li> <li>・取水場の緑化を推進することにより、まとまった緑のオープンスペースとして活かします。</li> </ul> <p>「山すそに沿った緑の軸の整備」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・拠点を結ぶ街路の緑化を図るとともに、天満川緑道や鑛伝道などによる、緑のネットワークの整備を促進します。</li> <li>・ゾーン内の公共施設(小・中学校など)の緑化を推進するとともに、宅地内の緑の充実を図ります。</li> </ul> <p><b>水辺のまちゾーン</b>            かつて淀川と深い関わりを持っていた楠葉のまちの、川とのつながりの復活を図ります。</p> <p>「まちから水辺へとつながる道筋の整備」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楠葉のまちから淀川へ至るアクセスを確保します。</li> <li>・天満川を活用した水辺のまちのシンボルとして、水と緑の軸を形成します。</li> </ul> <p>「堤内地に広がる歴史的まちなみの保全」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旧京街道に沿って残る巨木や道標、民家の石垣や生垣などを保全し、街道筋の歴史的イメージを継承します。</li> </ul> <p><b>【関連構想およびプロジェクト】</b>            淀川河川公園基本計画            歴史街道整備事業            楠葉台場跡保存事業</p>		<p>緑の山すそゾーン            男山の山すそに沿った市域に残る斜面林や社寺林、また山際のため池を取り入れて整備された公園の緑などを散策路によって結び、緑豊かな地域のイメージを目指す。</p> <p>「さまざまな緑とふれあえる拠点の育成」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交野天神社の杜や市民の森、面取山などのまとまった緑を保全し、自然とふれあえる場をつくる。</li> <li>・取水場の緑化を推進することにより、まとまった緑のオープンスペースとして生かす。</li> </ul> <p>「山すそに沿った緑の軸の整備」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・拠点を結ぶ街路の緑化を図るとともに、天満川緑道や鑛伝道などによる、緑のネットワークの整備を促進する。</li> <li>・ゾーン内の公共施設(小・中学校など)の緑化を推進するとともに、宅地内の緑の充実を図る。</li> </ul> <p>水辺のまちゾーン            かつて淀川と深い関わりを持っていた楠葉の町の、川とのつながりの復活を図る。</p> <p>「まちから水辺へとつながる道筋の整備」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楠葉のまちから淀川へ至るアクセスを確保する。</li> <li>・天満川を活用した水のまちのシンボルとして、水と緑の軸を形成する。</li> </ul> <p>「堤内地に広がる歴史的町並みの保全」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旧京街道に沿って残る巨木や道標、民家の石垣や生垣などを保全し、街道筋の歴史的イメージを継承する。</li> <li>・北摂山系を望む久修園院周辺の田園風景の保全を図る。</li> </ul> <p><b>【関連プロジェクト】</b>            淀川ロマン街道構想            歴史街道整備事業</p> <p>写真：市民の森</p>



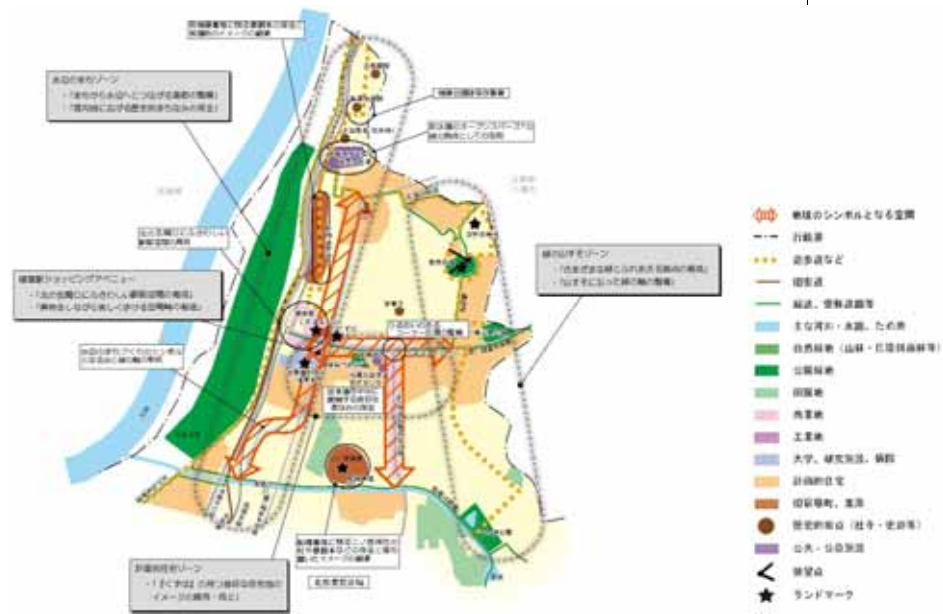
改訂案

時点修正の内容

現 行

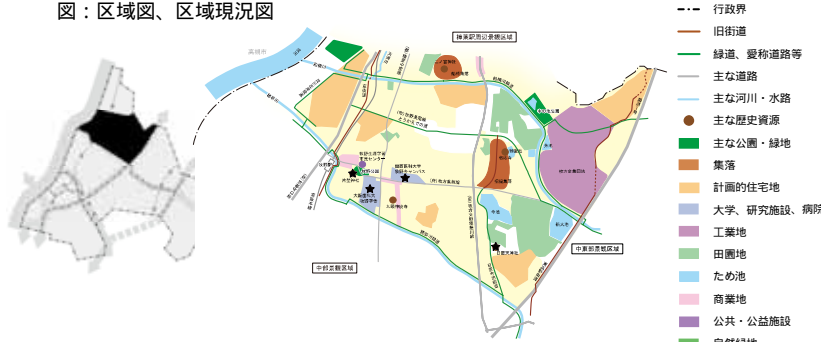


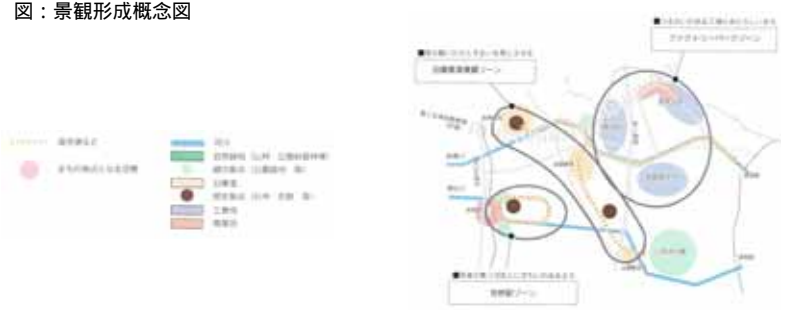
第 4 章  
4 - 2  
P48

図：景観形成構想図



図：景観形成構想図

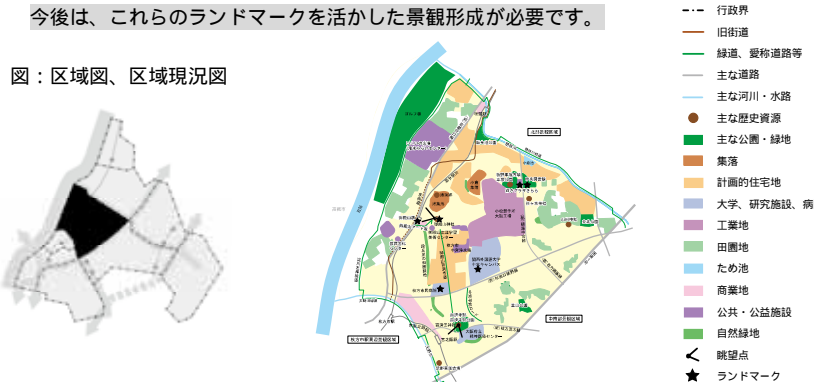


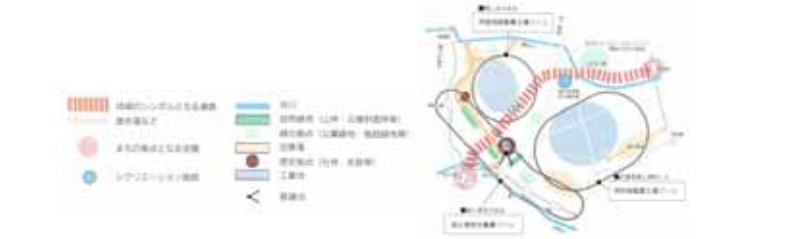


項目	改訂案	時点修正の内容	現 行
第4章 4 - 2 P49 ~ P50	<p>(3) 北部景観区域</p> <p>課題と方向性            牧野駅周辺では、再開発事業により、中高層住宅の建設や商店の集約が図られ、にぎわいのあるゆるりとらうの駅前空間が生まれ、新しいまちの姿に変わりつつあります。今後はこれらとともに穂谷川や片笠神社など地域の資源を活かしていく必要があります。</p> <p>また、淀川から府道枚方交野寝屋川線にかけては、計画的に整備された比較的大規模な公営住宅や戸建て住宅が立地し、良好な住宅市街地景観を形成していく必要があります。区域北部の船橋川沿川から招提、国道1号にかけての1帯には、まとまった田園や規模の大きいため池、古くからの集落景観が残っており、その落ち着いたたたずまいを受け継ぎながら、市街地においてらうのいと安らぎの感じられるゾーンとして活かしていきます。</p> <p>一方、国道1号沿道には、街路整備や緑化の比較進んだ大規模な枚方企業団地があり、今後は特性を活かしながら地域のイメージの向上へ向けて景観形成を進めていきます。</p> <p>図：区域図、区域現況図</p>  <p>景観形成の方針</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>にぎわいのあるゆるりとらうの境界の形成</li> <li>田園や旧集落のたたずまいを活かしたらうのいのあるまちづくり</li> <li>企業団地の周辺環境整備によるらうのいと活気のあるまちづくり</li> </ol> <p>図：景観形成概念図</p> 	<p>内容を踏襲</p> <p>時点修正を加える。</p> <p>区域の分割に合わせて内容を修正する。</p>	<p>(8) 北部地域</p> <p>《主な景観資源》            牧野駅と3大学を含む周辺市街地 穂谷川・船橋川            旧集落(招提・船橋など) 工業団地(中小企業団地・家具団地・既製服団地など)</p> <p>地域景観特性            穂谷川の下流部に位置する牧野駅周辺は、3つの大学が集中し若者のまちを形成している。しかし駅前や商店街は活気やゆるりが少なく、人や車が錯綜している。今後は穂谷川など地域の資源を生かしながら、にぎわいと活気にあふれた魅力あるまちなみの形成を図っていく必要がある。またこの地区の外縁部、船橋川から招提、出屋敷にかけての1帯には、まとまった田園やため池、古くからの集落景観が残っており、その落ち着いたたたずまいを受け継ぎながら、市街地においてらうのいと安らぎの感じられるゾーンとして活かしていく。</p> <p>一方、地域を南北に貫く国道1号沿道には、街路整備や緑化の比較進んだ大規模な工業団地が並んでおり、今後それぞれの工業団地の特性を生かしながら地域のイメージの向上へ向けて景観形成を進めていく。</p> <p>図：区域図、区域詳細図</p>  <p>景観形成のイメージ            ファクトリーパークと新旧の融和した若さのあるまち</p> <p>景観形成の方針</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>若者が集う活気とにぎわいのある境界の形成</li> <li>田園や旧集落のたたずまいを生かしたらうのいのあるまちづくり</li> <li>工業団地の周辺環境整備によるらうのいと活気のあるまちづくり</li> </ol> <p>図：景観形成概念図</p> 

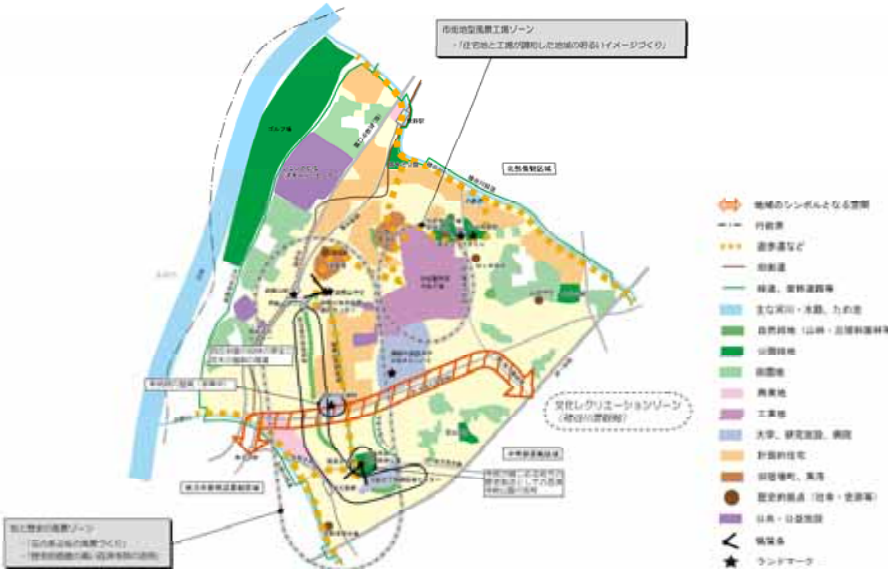


項目	改訂案	時点修正の内容	現 行
第4章 4 - 2 P51 ~ P52	<p>景観形成の方向</p> <p><b>牧野駅ゾーン</b>            にぎわいにあふれ、ゆとりとうるおいのある生活・商業空間の整備を進め、川の流れや緑陰を感じるまちの景観をつくりだします。</p> <p>「活気のある駅周辺の整備」            ・ にぎわいにあふれ、ゆとりとうるおいの感じられるまちなみの形成を図ります。            ・ 生活基盤であるコミュニティ道路や公園の整備を図るとともに、魅力ある商業空間をつくります。</p> <p>「地域に培われた歴史や緑の保全・活用」            ・ 牧野公園および片埜神社一帯の緑豊かな景観を守ります。</p> <p><b>田園集落景観ゾーン</b>            集落のたたずまいや田園風景、水辺などを活かした落ち着いたきとうるおいのある地域景観の形成を図ります。</p> <p>「歴史的風景の保全と活用」            ・ 船橋・招提 などの落ち着いた雰囲気を受け継ぎます。            ・ ニノ宮神社から日置天神社を経て山田池公園へ至る歴史的な散策ルートをつくります。</p> <p>「水辺を活用した景観整備」            ・ 新大池や今池などのため池の保全を図ります。            ・ 船橋川沿いの散策道を整備し、また河畔林の保全を図ります。            ・ 川に隣接したオープンスペースの確保や緑化を推進します。</p> <p><b>ファクトリーゾーン</b>            緑豊かで明るく活気のある景観形成を図り、枚方企業団地の個性を活かしたまちづくりを行います。</p> <p>「工業地の特性を活かしたイメージを高める景観形成」            ・ 工場の敷地において花や植栽などによる緑化を図り、社屋や工場の外観や色彩に配慮することにより、明るいイメージをつくりだします。</p> <p>「地域の主要道路の修景」            ・ 企業団地を貫く主要道路を地域の景観軸として位置づけ、その修景を図ります。            ・ うるおいのある街路整備を進めると同時に、団地内の建築物の配置やデザインなど全体としての調和を図ります。</p>		<p>景観形成の方向</p> <p>牧野駅ゾーン            若者が集う感性豊かな生活・商業空間の整備を進め、川の流れや緑陰を感じるまちの景観をつくりだす。            「活気のある駅周辺の整備」            ・ 若者が集い憩う、活気とにぎわいの感じられるまちなみの形成を図る。            ・ 穂谷川を生かした地域の顔にふさわしい駅前広場の整備を推進する。            ・ 生活基盤であるコミュニティ道路や公園の整備を図るとともに、魅力ある商業空間をつくる。            「地域に培われた歴史や緑の保全・活用」            ・ 牧野公園および片埜神社一帯の緑豊かな景観を守る。  <b>【関連プロジェクト】</b>  <b>牧野駅周辺地区再開発</b></p> <p>田園集落景観ゾーン            旧集落のたたずまいや田園風景、水辺などを活かした落ち着いたきとうるおいのある地域景観の形成を図る。            「歴史的風景の保全と活用」            ・ 船橋・招提・出屋敷集落などの落ち着いた雰囲気を受け継ぎます。            ・ ニノ宮神社から日置神社を経て山田池公園へ至る歴史的な散策ルートをつくる。            「水辺を活用した景観整備」            ・ 新大池や今池などのため池を水辺に親しむ拠点として活用する。            ・ 船橋川沿いの散策道を整備し、また河畔林の保全を図る。            ・ 川に隣接したオープンスペースの確保や緑化を推進する。</p> <p>ファクトリーパークゾーン            緑豊かで明るく活気のある景観形成を図り、それぞれの工業団地の個性を生かしたまちづくりを行う。            「工業地の特性を活かしたイメージを高める景観形成」            ・ 家具団地において、「家具の街」をイメージしたまちなみの形成とうるおいのある街路整備を進めると同時に、商業核としての機能の充実を図る。            ・ 工場の敷地において花の植栽などの緑化を図り、社屋や工場の外観や色彩に配慮することにより、明るいイメージをつくりだす。            「地域の主要道路の整備」            ・ 工業団地を貫く主要道路を地域の景観軸として位置づけ、その修景を図る。            ・ うるおいのある街路整備を進めると同時に、団地内の建築物の配置やデザインなど全体としての調和を図る。            写真：牧野公園、招提集落(敬応寺付近)、既製服団地</p>

項目	改訂案	時点修正の内容	現 行
第4章 4 - 2 P53	<p>図：景観形成構想図</p>	<p>時点修正の内容</p>	<p>図：景観形成構想図</p>

項目	改定案	時点修正の内容	現 行
第4章 4-2 P54	<p>(4) 中部景観区域</p> <p>課題と方向性</p> <p>中部景観区域は、西端を淀川に、東端を国道1号に挟まれ、区域の西部を南北に京阪本線が通り、3つの駅が近接する利便性の高い地域です。京阪本線の東側に沿って、淀川によって形成された緑の段丘崖が南北に走り、西側は低地部を形成し、住宅市街地景観を呈しています。東側は台地上の平坦地を形成し、市街地の中に大規模な工場が立地し、枚方の歴史を今に伝える多くの史跡や集落も点在しています。一方、新たな土地利用によりランドマークもつくりだされています。</p> <p>今後は、これらのランドマークを活かした景観形成が必要です。</p> <p>図：区域図、区域現況図</p> 		<p>(9) 中部地域</p> <p>《主な景観資源》</p> <p>中宮・春日付近の工業地      百済寺跡 旧集落(春日・村野など)      丘陵斜面林など</p> <p>地域景観特性</p> <p>中部地域では、国道1号をはさんで西側には市街地内に大規模な工場があり、また東側には大規模工場をはじめ田圃や住宅と混在した中小工場が見られ、全体としてうらおいの少ないまちなみとなっている。</p> <p>今後は、街の中で大きな面積を占めるそうした工場群において、はたらく人や住む人にとって快適で調和のとれたまちなみの形成を図っていく。</p> <p>図：区域図、区域詳細図</p> 
第4章 4-2 P55	<p>景観形成の方針</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 工場敷地の緑化などによる地域と調和のとれた景観形成</li> <li>2. 地域のシンボルとなるうらおいある道路の空間整備</li> <li>3. 丘陵斜面林や点在する史跡を活かしたまちづくり</li> </ol> <p>図：景観形成概念図</p> 		<p>景観形成のイメージ</p> <p>花と緑と歴史にふちどられた住工の調和したまち</p> <p>景観形成の方針</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 工場敷地の緑化などによる地域と調和のとれた景観形成</li> <li>2. 地域のシンボルとなるうらおいある道路の空間整備</li> <li>3. 丘陵斜面林や点在する史跡を生かしたまちづくり</li> </ol> <p>図：景観形成概念図</p> 

項目	改訂案	時点修正の内容	現 行
第4章 4 - 2 P56	<p>景観形成の方向</p> <p><b>市街地型風景工場ゾーン</b> 市街地の中心に位置する大規模工場と、それを取り囲む住宅地景観との調和を図ります。</p> <p>「住宅地と工場が調和した地域の明るいイメージづくり」  <ul style="list-style-type: none"> <li>住宅地の背景となり、また工場と住宅地の緩衝帯ともなる工場の敷際を花や緑で演出します。</li> </ul> </p> <p><b>坂と歴史の風景ゾーン</b> 丘陵斜面地に残る樹林や百済寺跡などの歴史的拠点を活かし、うるおいと落ち着きのあるまちの風景をつくります。</p> <p>「花のある坂の風景づくり」  <ul style="list-style-type: none"> <li>連続した丘陵斜面林や点在する桜などの樹木の保全・育成を図るとともに、それらを活かした公園整備を行います。</li> <li>段丘斜面において花木を用いた法面の修景を図ります。</li> <li>まちの軸であり、枚方市駅と「文化レクリエーションゾーン」を結ぶ道路（(都)枚方藤阪線）を、プランターや植栽などにより緑あふれる軸として整備します。</li> </ul> </p> <p>「歴史的価値の高い百済寺跡の活用」  <ul style="list-style-type: none"> <li>国の特別史跡である百済寺跡を、より親しみのある歴史公園として活用します。</li> <li>百済寺跡公園などの歴史的拠点や公園を巡る散策路の整備を図ります。</li> <li>百済寺跡を含めた周辺地域の歴史的な景観の保全を図ります。</li> </ul> </p> <p>【関連構想およびプロジェクト】            新病院整備事業            特別史跡百済寺跡再整備事業            みどりの大阪推進計画</p>		<p>景観形成の方向</p> <p>市街地型風景工場ゾーン 市街地の中心に位置する大規模工場と、それを取り囲む住宅地景観との調和を図る。</p> <p>「住宅地と工場が調和した地域の明るいイメージづくり」  <ul style="list-style-type: none"> <li>住宅地の背景となり、また工場と住宅地の緩衝帯ともなる工場際を花や緑で演出する。</li> <li>まちの軸であり、枚方市駅と「文化レクリエーションゾーン」を結ぶ道路（枚方藤阪線）を、フラワーポットや植栽などにより季節感あふれる「花街道」として整備する。</li> </ul> </p> <p>郊外型風景工場ゾーン 幹線道路に沿って展開する工業地と周辺に広がる田園が調和した、まちの風景をつくりだす。</p> <p>「田園や道路景観と調和した工場風景の創造」  <ul style="list-style-type: none"> <li>工場敷地および街路の緑化を推進する。</li> <li>ブロック塀などのネットフェンス化により、敷地内緑地の視覚的解放を促す。</li> <li>広大な敷地を持つ村野浄水場の緑化を推進し、緑の拠点とするとともに、建物・工作物の敷際やデザインを地域のランドマークにふさわしいものとする。</li> </ul> </p> <p>「春日集落の落ち着いたたたずまいの継承」  <ul style="list-style-type: none"> <li>集落内に残る土塀や蔵の保全を図る。</li> <li>春日通りに残る落ち着いた家並みの伝統的な雰囲気継承する。</li> </ul> </p> <p>写真：花による工場敷際の演出、春日通り</p> <p>坂と歴史の風景ゾーン 丘陵斜面地に残る樹林や百済寺跡などの歴史的拠点を活かし、うるおいと落ち着きのあるまちの風景をつくる。</p> <p>「花のある坂の風景づくり」  <ul style="list-style-type: none"> <li>連続した丘陵斜面林や点在する桜などの樹木の保全・育成を図るとともに、それらを活かした公園整備を行う。</li> <li>段丘斜面において花木を用いた法面の修景を図る。</li> </ul> </p> <p>「歴史的価値の高い百済寺跡の活用」  <ul style="list-style-type: none"> <li>国の特別史跡である百済寺跡を、より親しみのある歴史公園として活用する。</li> <li>百済寺跡公園などの歴史的拠点や公園を巡る散策路の整備を図る。</li> </ul> </p> <p>写真：百済寺跡</p>

項目	改訂案	時点修正の内容	現 行
第4章 4 - 2 P57	<p>図：景観形成構想図</p> 		<p>図：景観形成構想図</p> 